

日本社会事業大学大学院

Graduate Schools of Japan College of Social Work

GUIDE BOOK

2024

実践力とマネジメント力の向上を目指す

■ 専門職大学院 福祉マネジメント研究科

社会福祉の課題を科学的に解明する

■ 研究大学院 社会福祉学研究科

日本の社会福祉を先導する2つの大学院



日本社会事業大学大学院

<https://www.jcsw.ac.jp/>

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

代 表 ／ TEL.042-496-3000 FAX.042-496-3001

入試広報課 ／ TEL.042-496-3080 FAX.042-496-3081

フロンティアで究めよう。

社会福祉とソーシャルワークの深奥へ

1946年に政府からの委託を受け、

日本初の社会福祉・ソーシャルワークの専門教育機関として創立された日本社会事業大学。

日本の社会福祉に変革をもたらすリーダーを育成するべく、

「専門職大学院福祉マネジメント研究科」と

「研究大学院社会福祉学研究科」を設置しています。

ソーシャルワークの現場で高度な専門性を発揮して活躍する人。

社会福祉学分野で実践的かつ学術的な新しい知見を見いだす人。

誰かの幸せを願い、探究するその人の想いに本大学院は応えます。

福祉研究の原点にして「フロンティア（最前線）」であるこの場所から、

未来を切り開くその挑戦を加速させましょう。

日本社会事業大学大学院

INDEX

研究者インタビュー	04	研究大学院社会福祉学研究科	18	学費 / 奨学金	32
2つの大学院	06	博士前期課程(修士課程)	20	入試概要	34
専門職大学院福祉マネジメント研究科	08	博士後期課程(博士課程)	22	説明会 / アクセス	35
カリキュラムの方針と構造	10	教員×院生対談	24		
履修形態とキャリア形成支援	12	教員紹介	25		
教員×院生対談	14	修了生の声	28		
教員紹介	15	学長メッセージ / 沿革	30		
修了生の声	16	組織図	31		

研究者インタビュー

現場での経験を学びに変えて 「実践知」を磨く

今日に至るまで、私は医師として在宅医療の現場で長年働いてきました。ケアマネジャー・ソーシャルワーカー・看護職・介護職などさまざまな職種の方々と協働します。そこで得た知見に基づき、担当するゼミでは在宅ケアや地域医療、多職種連携、福祉人材育成といった研究テーマを扱っています。

着任のきっかけとなったのが、東日本大震災です。停電でインフラが止まり、連絡手段がない状態で生じた悲しい出来事の数々に、普段から多職種間で連携を十分に図っておくことの重要性を痛感しました。多様な職種・立場の人で構成されるチームでは、専門用語一つをとっても解釈が異なることがあります。これは受けた教育が大きく影響していると感じるようになりました。場合によっては命に関わる情報を扱うこともあり、教育機関と現場をつなげる一端を担えればと思っています。

院生は、福祉や介護の現場で働いている方が多く、実践力やマネジメント力を高めたいという熱意を持って学ばれています。職場での経験だけだと自己流になってしまうので、客観的な視点を取り入れるべく議論を重ねたり、事例と理論を照らし合わせたり、各領域の最新トピックを学び合ったりしています。ゼミでは、それぞれの現場のモヤモヤをテーマに実践課題研究を進めていきます。通常の授業以上に①経験学習②批判的思考③省察④対話を重視しており専門職大学院では最もエキサイティングな学びの場です。

実践課題研究を全うすることで皆さんには現場で自ら思考し、柔軟に行動できる省察的実践家を目指してほしいと願っています。そのため、経験を学びに変える実践知を専門職大学院で磨きましょう。



鶴岡ゼミの様子



専門職大学院 福祉マネジメント研究科

鶴岡 浩樹 教授

〔研究テーマ〕
在宅医療、多職種連携、福祉人材育成

日本の社会福祉学の原点である本学は、「福祉のリーダーを養成する」という使命のもと、日々の教育や研究に取り組んでいます。専門職大学院の鶴岡先生、研究大学院の賛川先生のインタビューから、最新の教育内容や研究成果をご紹介します。

より良い支援プログラムを開発し、 誰もが自分らしく生きられる人生を

精神保健福祉を専門とする私は、科学的根拠に基づく実践と家族支援の在り方について研究しています。主要なテーマの一つが、「精神障がいのある人の家族に対して効果的な支援を実現するプログラム開発・改善（プログラム評価）」です。海外では家族支援の必要性やその効果が認められ広く実践されてきていますが、日本では一部で実施されているものの、必ずしも普及が進んでいません。また、研究を進める中で、現状の制度やサービスが多様化する福祉ニーズに十分に対応できていないことも浮き彫りになりました。諸課題の解決に向けて、より良い支援システムの構築や改善方法を模索しています。

現在の専門分野を研究し始めたきっかけは、日本における、精神障がいのある方が置かれている状況に疑問を抱いたことでした。当事者とかかわるなかで、精神障がいのある人が“障がい者”としての人生を送っているのではないかと感じたのです。家族もまた同様でした。病気や障がいがあっても、そしてその家族であっても、人が人として幸せを追求する人生を送れるような支援を考えるようになり、研究を続けています。

実際の研究過程においては、初めに先行研究で何が明らかにされており、何がまだ課題なのかを調べます。そのうえで、支援を必要とする人や現場の実践家にインタビューなどを行います。そこで得た「声」と文献からの知見を組み合わせ、支援プログラムを検討し、実証研究を重ねながら論文にまとめます。そのなかで、人がなぜそうするのか、苦悩するのか、心理面と環境面に着目して課題を検討することが重要だと考えています。現場の実践知と合わせて、当事者の苦しみから職員の対応まで、なぜそうなったのかその理由を徹底的に追究することが本質的な課題解決につながると考えています。

課題を多く抱えている現在の福祉領域。一朝一夕で解決に至ることは必ずしも容易ではないからこそ、院生のみならずには長期的な視野を持って研究に取り組んでほしいと思います。私は大学院時代に、指導教員から「研究は小石を積み上げるようなもの」と教わりました。一人ひとりの研究成果が現場ですぐに役立つとは限りませんが、それは次の研究につながり、その積み重ねは必ず将来の新たな知見につながっていきます。それこそが研究大学院で福祉領域の課題を追究する意義なのではないでしょうか。



研究大学院 社会福祉学研究科

賛川 信幸 教授

〔研究テーマ〕
精神障害当事者と家族のリハビリに向けた支援プログラムの開発・改善、実践家のエンパワメント

2つの大学院

専門職大学院 福祉マネジメント研究科

実践研究を通じ現場の最前線で求められる人に

社会が大きく変化するなかで、私たちは社会福祉を普遍的なニーズとして認識するようになりました。しかしながら、それと同時に、生活困窮、虐待、孤立、社会的排除、貧困の連鎖など、複雑で深刻な問題を抱える人々は増え続け、自らの実践と経験だけでは解決できない状況が次から次へと生まれています。

「分野を越えて学びたい」「これまでの実践を振り返りたい」「支援のあり方を見つめ直したい」「人材育成の方法を学びたい」「福祉経営の知識を体系的に獲得したい」。専門性を深め、視野を広げる。チームや組織を理解し、他機関との連携を進めること。これらのニーズに応え、高度な福祉人材を育成することが、専門職大学院福祉マネジメント研究科のミッションです。

身につく力

福祉の現場経験を糧として学びなおし
実践力とマネジメント力の向上を目指します。

- 1 ソーシャルワーク実践力の向上
- 2 スーパービジョン
- 3 福祉人材の育成
- 4 組織と現場のマネジメント
- 5 実践現場の変革



専門職大学院 福祉マネジメント研究科 Q&A

Q. 研究大学院との違いは
なんですか？

A. 実践現場で働きたい人が
学びます。

研究大学院は研究者の育成に重点を置き、専門職大学院は実践家の育成に重きを置いています。実践力とマネジメント力の向上を目指します。

Q. 働きながら学べますか？

A. 働きながら学びやすい環境を整えています。

2年間で計画的にカリキュラムを履修できる長期履修制度があります。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。また、オンライン・対面どちらでも受講ができる同時双方向型遠隔授業を実施します。詳細はP.9のPick Upをご確認ください。

Q. 専門実践教育訓練給付制度に
ついて教えてください。

A. 学費の一部を支給する
雇用保険の給付制度です。

標準修業年限(1年)で修了する2024年4月入学生で雇用保険の加入期間等条件を満たした方が申請できます。給付額の上限は56万円です。

こんな人にオススメ ☐ 支援のあり方を見つめ直したい ☐ 人材育成や福祉経営の基本を体系的に学びたい など

研究大学院 社会福祉学研究科

科学的研究を通じ福祉現場をより良いものに変えられる人に

福祉に求められるものは時代とともに変わります。そこで必要となるのが、現状での課題をしっかりと捉え、さまざまな視点から検証し、将来に向けて新しい提案ができる専門家です。本大学院では、より良い社会福祉実践を実現するために、研究的な視点を持つ実践者、および実践的な研究者を育成しています。

博士前期課程(修士課程)

現代のさまざまな福祉ニーズを科学的に明らかにし、その解決に有効な援助方法や支援モデル、福祉制度・政策のあり方を追求する方法を身につけます。

前期課程で身につく力

- 1 社会福祉援助方法を科学的に追求する能力
- 2 社会福祉実践プログラムを科学的に追求する能力
- 3 社会福祉制度・政策のあり方を科学的に追求する能力
- 4 社会福祉理論を科学的に追求する能力

博士後期課程(博士課程)

自立した研究能力を持ち、社会福祉実践の向上に役立つ研究を行って社会に影響を与えることのできる実践研究者および実践の中で、研究ができる人材を育成する教育研究者を養成します。

後期課程で身につく力

- 1 研究課題を科学的に追求する自立した研究能力
- 2 社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に資することのできる高度の実践研究能力
- 3 社会福祉学の豊かな学識
- 4 国際的、学際的な視野から各専門領域で活躍できる能力

研究大学院 社会福祉学研究科 Q&A

Q. 他大学院との
交流はありますか？

A. はい。大学院社会福祉学専攻
課程協議会に加盟しています。

本学を含め13校の福祉系大学院で構成する大学院社会福祉学専攻課程協議会に加盟しています。他大学院の科目を委託聴講したい場合は、指導教員の了解のもと2単位1,000円で10単位を限度として委託聴講できます。

Q. 働きながらでも通えますか？

A. 福祉現場や教育機関の方など、
大勢の社会人学生の方が本学で学んできました。

授業は研究講義や研究演習、論文指導のすべてを木・金・土曜日に集中して開講しています。授業形態も、対面だけでなく、多くの授業がオンライン受講できるため、今まで以上に両立しやすくなっており、遠隔地からの進学も増えています。

Q. 教育訓練給付制度は
適用されますか？

A. 指定講座となっているので、
適用されます。

研究大学院(博士前期課程)は、一般教育訓練給付制度の指定講座となっています。給付条件の対象となる方に費用の20%(上限10万円)が支給されます。

こんな人にオススメ ☐ 社会福祉に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を目指す ☐ 研究者・実践家を育てる教育者を目指す など

専門職大学院 福祉マネジメント研究科

専門実践教育訓練給付金制度
厚生労働大臣指定教育訓練講座

実践とマネジメントの両輪で、
現場にイノベーションを
もたらす。

8つの特長

- 1 実践力の向上を目指す**
基本の再確認と最新の動向・技法を学び、
対人支援専門職としての実践力の向上を目指します。
- 2 マネジメントできる力の獲得**
現場のサービス向上を図り、チームや組織をマネジメント
できる力の獲得を目指します。
- 3 組織のあり方等について振り返り言語化**
事例研究やスーパービジョンを通して、自身や所属組織の
あり方等について振り返り言語化します。
- 4 認定社会福祉士の単位を取得**
多数の講義が、認定社会福祉士の大学院ルートに位置づ
けられています。
- 5 1年間で修士(専門職)の学位を取得**
最短で1年間、現職継続者で長期履修者の場合には2年間
で、修士(専門職)の学位が取得できます。
- 6 遠隔地でも仕事をしながら学べる**
オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド授業を導入し
北海道や沖縄など遠隔地からの入学者も増えています。
- 7 アクセスが便利**
対面授業は、清瀬キャンパスと文京キャンパス(東京メトロ
丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩5分)で行います。
- 8 多様な仲間との出会い**
多様な仲間との交流や自由で対等な議論を通して、すぐに
役立ち、生涯にわたるネットワークが築けます。

教育理念

日本社会事業大学専門職大学院は、社会福祉分野におけ
る高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とし
て、日本で最初に開設された福祉専門職大学院です。人権
の尊重、社会正義の実現、共生への責任、多様性の尊重と
いったソーシャルワークの価値に基盤を置き、人々のニーズ
と社会の変化に対応し、実践の改善と開発を進め、社会の
変革と人々のウェルビーイングの実現に貢献できる人材を
養成します。

アドミッションポリシー

本学では、教育目標を実現するために、以下のような方を入
学者として求めています。

- ア.自己と他者を、人格を持つ個人として尊重できる人
- イ.人々のウェルビーイングは、その人が置かれた環境と深く関係して
いるという考え方を理解し、その人をとりまく環境である家族、組
織、地域及び社会に対して関心を高く保ち、これらの環境の改善や
改革に取り組む意志を有する人
- ウ.自身の社会福祉実践力の向上はもとより、自己が属する組織や団
体の福祉実践力、あるいは地域や社会の福祉力の向上に意欲や
関心を有する人
- エ.社会福祉などの対人援助実践、あるいは社会福祉などの機関・組
織・事業所において運営管理の業務に携わり、自らの実践を幅広く
振り返る経験を有する人

「アドミッション・ポリシー」の詳細は
本学Webサイトをご確認ください。



修業年限	1年(標準修業年限) 2年(長期履修制度を利用する場合)
定員	50名
学位	福祉マネジメント修士(専門職)

研究科長メッセージ



仲間や教員との対話を通じて、
新しい時代の社会福祉を切り拓く

福祉マネジメント研究科
研究科長

井上 由起子 教授

本学は日本で最初に開設された福祉専門職大学院です。相談援助職として
のスキルアップ、組織や現場のマネジメント、福祉人材の学習と育成、安寧な
地域社会の実現。専門職大学院では、これらを体系的に学べるカリキュラムを
用意しています。

普遍的な理論に触れ、ぶれない価値を身につける。自らの実践を振り返り、
確かな教訓を得て、明日からの支援に活かす。様々な実践現場で働く仲間と
の出会いも本学の魅力の一つです。現場の第一線で活躍する実践者、彼らを
支える管理職と経営者層、地域課題の解決を目指した社会的起業。高齢、障
害、子ども、困窮、司法、住宅、学校、地域。分野や立場を超えて仲間と切磋琢
磨し、視野や世界を広げ、ネットワークを育む。私たち教員は、皆さんが安心して
実践上の課題や職業的アイデンティティを開示し、自由闊達な対話と討論
を通じて、支援上の悩み、苦しみ、そして喜びを分かち合いながら、専門職とし
て成長していくための学びの場を整えることに力を注いでいます。ここで一緒
に学びませんか。実践に裏打ちされた自由でしなやかな知を求めて。

Pick Up

仕事と両立しやすい授業形態

授業は木・金曜日夜と土曜日で実施しま
す。そのうち、木曜日はオンライン授業の
み、金曜日はオンライン授業が中心です
が一部ハイブリッド授業です。土曜日は対
面授業が中心ですが、一部、オンライン授
業があります。演習は対面を原則としつ
つ、一定割合オンラインで受講できます。

※ハイブリッド授業とはオンラインと対面
のどちらでも受講が可能な授業形態です。

※オンライン授業は全て同時双方向型
遠隔授業です。

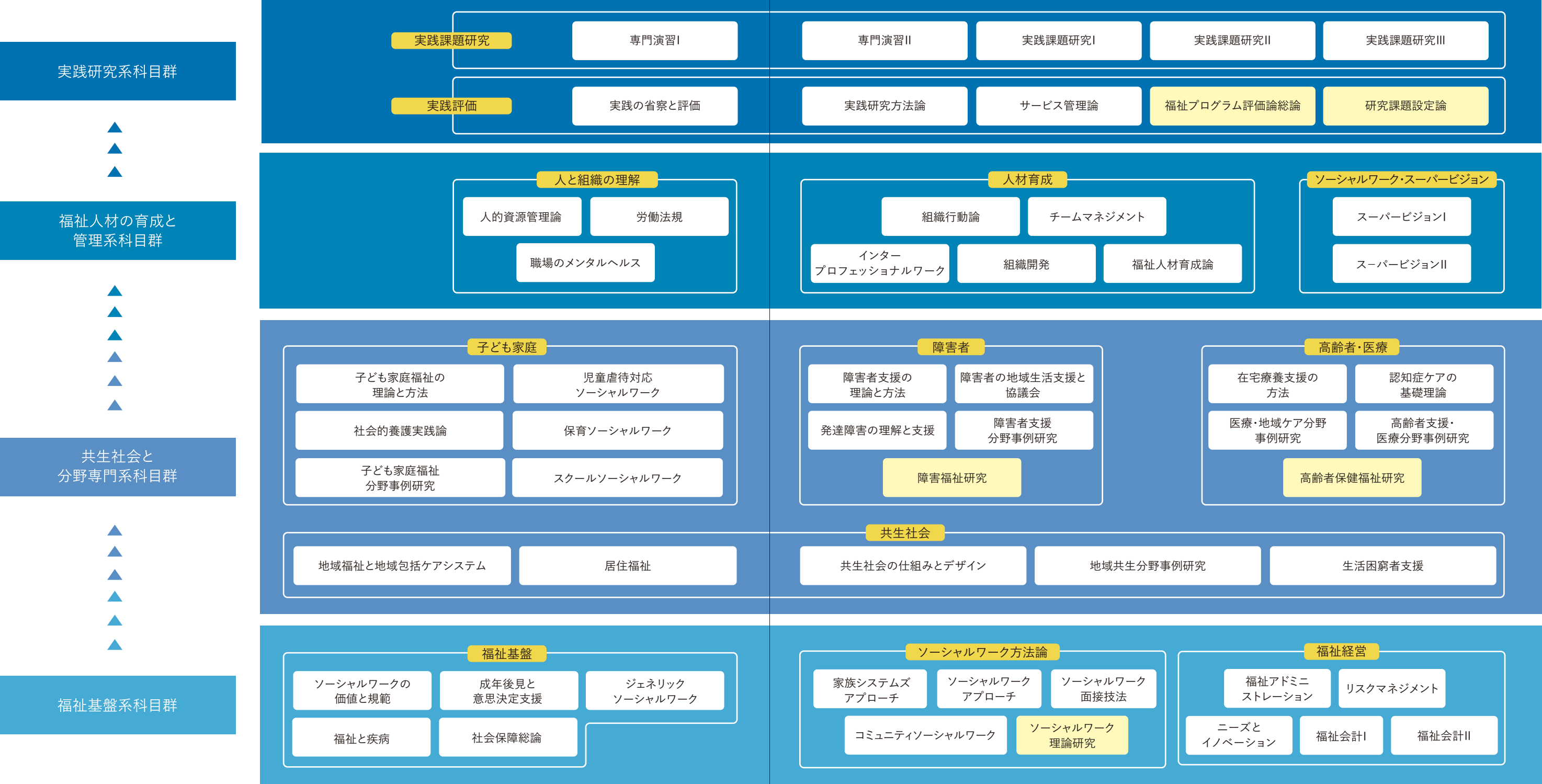
※オンラインで受講する場合は、各自に
てインターネット環境、ノートPC等による
Webカメラ、マイクを用意していただく必
要があります。



カリキュラムの方針と構造

» カリキュラムの方針

社会状況の変化に伴い、福祉現場の課題は多様化、複雑化しています。支援する側も複数の分野にまたがり、様々な制度の知識と、多職種・多機関と協働できる力が必要とされています。このような現状を踏まえ、人権の尊重と共生社会を担う人材養成を念頭に、実践力の向上や組織運営などマネジメント力の獲得を目指します。自らの実践を省察することを教育の中核に置きます。質の高い福祉実践に有益な知識や理論を獲得したうえで自らの実践を振り返り、記述し、概念化し、評価し、次なる実践に結びつける、このサイクルを意図的に展開できる人材の育成をカリキュラム方針に据えています。



[2023年度参考]

研究大学院との合同授業

履修形態とキャリア形成支援

社会福祉領域は実践と学問の距離が近い分野です。専門職大学院では、仕事と学びの両立を積極的に支援する体制を整えることで、実践を学びに活かし、学びを実践に活かす、この循環を促します。長期履修制度、修了後の学びを支援する修習生制度、認定社会福祉士の研修認証科目などを整えています。

» 履修形態

1年間 | 通常履修の流れ

4月	● 入学式 ● オリエンテーション ● 指導教員決定
6月	● 実践研究計画書提出 前期の実践研究計画を提出する。 ● 学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
9月	● 実践研究中間報告会 前期に取り組んだ実践研究について発表する。
10月	● 実践研究計画書提出 後期の実践研究計画を提出する。
1月	● 実践研究報告書の提出
2月	● 実践研究報告会 実践研究を含めた学びの総括を発表する。
3月	● 学位授与式(修了式)

標準修業年限は1年です。この場合、金曜日の午後に演習(年10回程度)があります。平日(木・金)の講義・演習はオンラインと対面(文京キャンパス)を中心に実施します。土曜日の講義と演習(年20回程度)は清瀬キャンパスと文京キャンパスにわかれます。平日日中も学びにあてることができる方は、研究大学院の授業を履修・聴講できます。

〈1年履修例〉 ※2023年度参考						
	月	火	水	木	金	土
1限(9:00~10:30)						講義
2限(10:40~12:10)						
3限(13:00~14:30)						演習 10回
4限(14:40~16:10)						
5限(16:20~17:50)						演習 20回
6限(19:00~20:30)						
7限(20:40~22:10)				講義	講義	計30回

2年間 | 長期履修の流れ

1年次	
4月	● 入学式 ● オリエンテーション ● 指導教員決定
6月	● 実践研究計画書提出 1年目の実践研究計画を提出する。 ● 学内学会(日本社会事業大学社会福祉学会)
1月	● 実践研究中間報告会

仕事と学びの両立を支援するために長期履修制度を設けています。必要性が認められ、許可された場合に利用できます。平日(木・金)の講義はオンラインと対面(文京キャンパス)を中心に実施します。土曜日の講義と演習(年15回×2年)は清瀬キャンパスと文京キャンパスにわかれます。

〈2年履修例〉 ※2023年度参考						
	月	火	水	木	金	土
1限(9:00~10:30)						講義
2限(10:40~12:10)						
3限(13:00~14:30)						演習 15回
4限(14:40~16:10)						
5限(16:20~17:50)						2年で 計30回
6限(19:00~20:30)				講義	講義	
7限(20:40~22:10)						

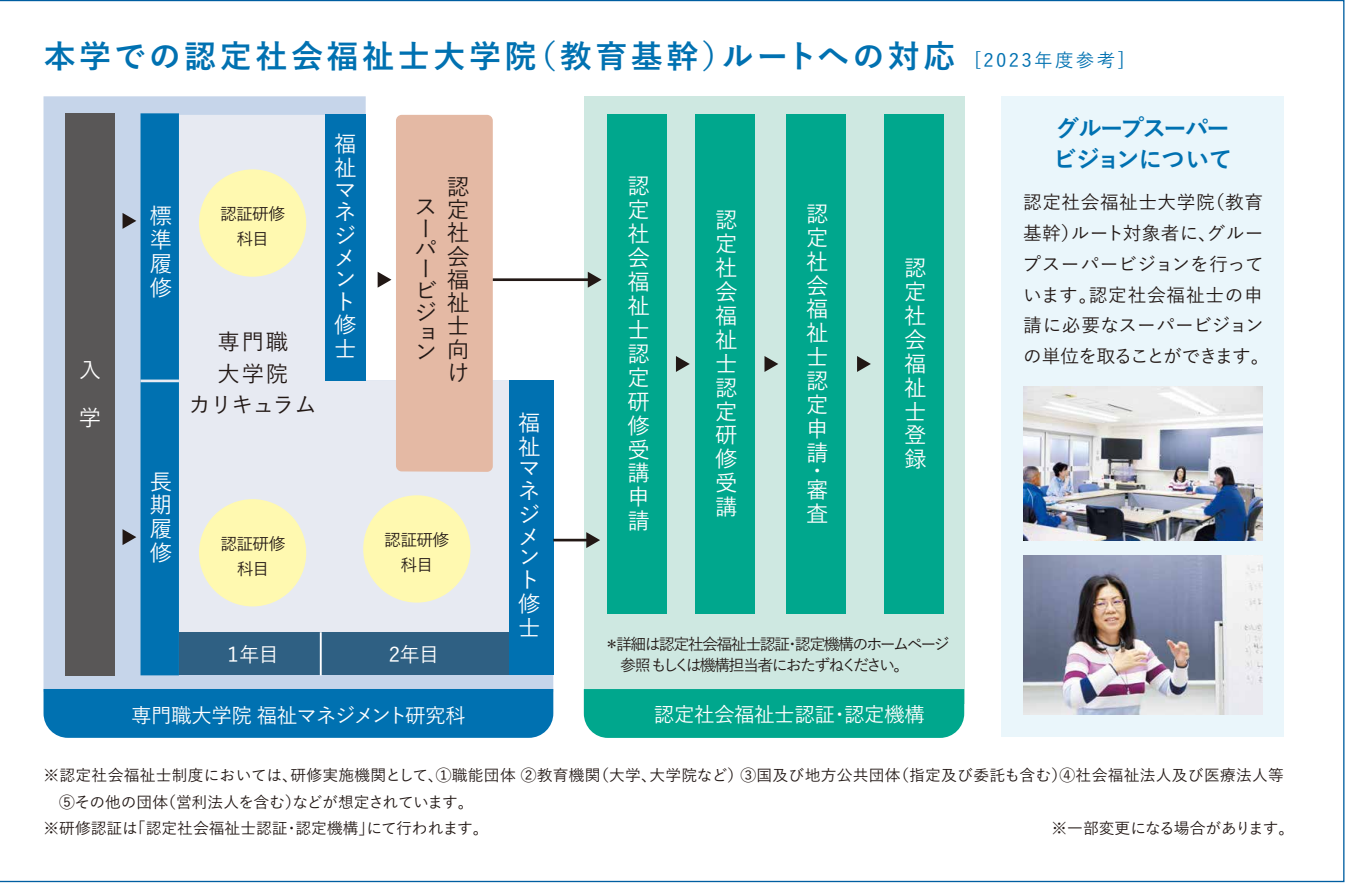
修習生制度	専門職大学院を修了後、手頃な費用負担で学びを継続できる制度です。講義の聴講が可能です。 1年更新で原則2回まで利用できます。専門職大学院修了後、一定期間、実践に集中した後制度を活用することも可能です。
-------	---

» キャリア形成支援

充実したカリキュラムで認定社会福祉士を養成

社会福祉士の上位資格として、認定社会福祉士が設けられています。本学専門職大学院で開講している授業のうち27科目は認定社会福祉士の研修認証科目として認められています(2023年度)。認定社会福祉士認証・認定機構は2020年度に、認定社会福祉士の取得ルートに「大学院(教育基幹)ルート」を新設しました。これにより、本学専門職大学院在籍中に、「大学院(教育基幹)ルート」で必要とされる18単位のうち、スーパービジョン実績を除く研修認証科目の16単位を選択し単位修得することが可能となります。またスーパービジョンについても、在学中もしくは修了後一定期間内において、本学スーパーバイザー教員に希望することができます。

※認定制度の詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構ホームページでご確認ください。



認定社会福祉士制度とは

高度な知識と卓越した技術を用いて、個別支援や他職種との連携、地域福祉の増進を行う能力を有する社会福祉士のキャリアアップを支援する仕組みとして実践力を認定する「認定制度」で、「認定社会福祉士」及び「認定上級社会福祉士」の2種があります。「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正時に衆議院及び参議院で附帯決議された「専門社会福祉士及び専門介護福祉士の仕組みについて、早急に検討を行う」に基づき実施され、制度運営、研修実施団体の認証、認定社会福祉士・認定上級社会福祉士の認証は、「認定社会福祉士認証・認定機構」にて行われます。

認定社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、所属組織を中心とした分野における福祉課題に対し、倫理綱領に基づき高度な専門知識と熟練した技術を用いて個別支援、他職種連携及び地域福祉の増進を行うことができる能力を有することが認められた人です。

認定上級社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」の定義に定める相談援助を行う人であり、福祉についての高度な知識と卓越した技術を用いて、倫理綱領に基づく高い倫理観を持って個別支援、連携・調整及び地域福祉の増進などに関して質の高い業務を実践するとともに、人材育成において他の社会福祉士に対する指導的役割を果たし、かつ実践の科学化を行うことができる能力を有することを認められた人です。

詳細は、認定社会福祉士
認証・認定機構ホームページ
<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/>

教員×院生 対談



専門職大学院
福祉マネジメント研究科
宮島 渡 特任教授

専門職大学院
福祉マネジメント研究科
柏本 英子さん

経験を振り返り、さらなる高みや新たな方向に 踏み出すきっかけを得たかけがえのない2年間

柏本 私はデイサービスセンターで管理者業務に携わっています。引き継ぎや事前教育が不十分な状態で管理者に任命された経験から、実践研究テーマを「管理者の育成」に設定しました。職務を遂行する中で戸惑いやわだかまりを感じていた問題について、先生から「こういうアプローチもある」とご示唆いただけたことで、思考が整理され課題を焦点化できました。

宮島 専門職大学院に進学する人は全員が社会人です。経験豊かで職場ではリーダー的な立場の方が多いため、「こうすべきだ」と指導するのではなく、これまでの経験を振り返りながら自ら考えて行動してもらえるように努めています。

柏本 ゼミには8名の院生がいますが、皆さんが現場で携わっている業務は実にさまざまです。お互いの専門性を尊重しながら意見交換ができ、多様な視点に触れられるのは専門職大学院ならではの魅力だと感じます。

宮島 柏本さんはゼミ生の中でも一番遠い京都からの通学なので、対面授業の時は移動時間が長く、仕事との兼ね合いも含めて大変だったのではないのでしょうか？

柏本 朝早い授業の時は前泊していました。しかし、毎回が新鮮な発見の連続で、苦になることはありませんでした。OB・OGの方々が来てくださったゼミ合宿も忘れられません。大学院に進学し、人生の中で一番濃い時間を過ごしている充実感があります。

宮島 専門職大学院は、自分の知識・技術や精神面を顧みる、言うなれば「階段の踊り場」みたいな場所です。踊り場なので、今まで一生懸命に仕事という階段を上ってきたのを、一度立ち止まって振り返ることもできます。皆さんがさらなる高みや新たな方向に踏み出すきっかけになるでしょう。

柏本 卒業後は大学院での学びや実践の中で蓄積してきたデータ・ノウハウを、現場にアウトプットしたいと考えています。より良い管理者の育成法を確立できるように研鑽を重ねます。

対話を通して変化した考え方や価値観 ポジティブな気持ちで生まれたアイデアを実装へ

阿部 地方自治体で子育て支援業務に従事しており、増加の一途を辿る児童虐待の現状とその予防に対するアプローチについて知見を深めたく、専門職大学院への進学を決めました。当初はゼミに「議論をする場」というイメージがあったのですが、実際は一人ひとりが抱えている課題を全員で共有し、お互いを尊重しながら共創する心地よい「対話の場」でした。須江先生のファシリテーションが、私たちゼミ生に心理的な安全をもたらし、学習の質を高めてくれたのを感じました。

須江 専門職大学院に入学された院生は、皆さんが現場で活躍しながらも課題意識を持ち、仕事と研究の両立という選択をされた方々です。その真摯な取り組みを心から尊敬します。私は、みなさんにとってゼミが、質問を通してお互いに深め合う「場」になるよう心がけています。

阿部 ゼミでの対話を通して研究に対する考え方も大きく変わりました。以前から児童虐待の予防に向けて保健と福祉が緊密に連携することの必要性を感じていたのですが、当初は自分が所属する組織の問題点を探いかに解決していくかということばかりに目を向けがちでした。しかし、先生や院生と真剣に対話を重ねていく中で、徐々に「強み」にフォーカスし、建設的な未来に向けた思考で課題と向き合うことが重要だと気づけたのです。

須江 それは阿部さん自身が、対話の中で皆さんが発した言葉をしっかりと咀嚼して、自分の実践を丁寧に省察したから気づけたことでしょう。「一緒に考えていこう」というゼミのメンバーの結束力も大きな力ですね。

阿部 専門職大学院では、普段の職場であり接点のない業種の方の視点や解釈、価値観に触れることができます。そのため、吸収した知識・ノウハウから自分の職場でも「こんなことを実践してみたい!」とさまざまなアイデアやポジティブな気持ちが生れました。対話を通して自身の考え方が大きく変わるプロセスを経験しています。実践研究を重ね、より良い連携の在り方を探究していきたいです。



専門職大学院
福祉マネジメント研究科
須江 泰子講師

専門職大学院
福祉マネジメント研究科
阿部 勝広さん

教員紹介

※専門演習Ⅰ・Ⅱ、実践課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
〔担当科目は2023年度開講科目〕

〔SW〕はソーシャルワーク、〔SV〕はスーパービジョンの略称です。

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。



【担当科目】
※／実践の省察と評価／サービス管理論／組織行動論／チームマネジメント／人的資源管理論／居住福祉／福祉会計・Ⅱ



井上 由起子 研究科長 教授

住宅と福祉がクロスする領域を専門とし、本学では人材育成、サービス管理、チームマネジメントなどを担当しています。実践力の向上に資する組織やチームのあり方について、理論と実践を紐づけながらディスカッションし、切磋琢磨できる学びの場の構築を目指しています。

【略 歴】
1990年、日本女子大学卒業。清水建設勤務を経て、横浜国立大学工学研究科修了。博士（工学）。2001年、国立医療・病院管理研究所 主任研究官。組織再編により国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部 席主任研究官。2012年より現職。一級建築士、社会福祉士、宅地建物取引士。
【主な研究分野】
高齢者福祉、居住支援、高齢期の住まい、福祉人材育成、福祉経営



【担当科目】
※／障害者支援分野事例研究／障害者の地域生活支援と協議会／共生社会の仕組みとデザイン／成年後見と意思決定支援 他



曾根 直樹 教授

現場で苦労していると、障害福祉サービスを提供することが目的となってしまうことがあるように感じます。様々な制度や福祉サービスは手段であり、目的は、基本的人権を尊重することです。目的と手段を間違えないことを大切にしながら、共生社会の実現をともに目指しましょう。

【略 歴】
1982年、文教大学教育学部卒業。2020年、東洋大学大学院ライフデザイン学研究科修士課程修了。社会福祉士。埼玉県社会福祉事業団、社会福祉法人昴、東松山市社会福祉協議会で、障害児・者の入所施設、通園施設、グループホーム、相談支援事業等の現場職員、管理職を経験した後、2012年、厚生労働省障害福祉課・専門官を経て現職。
【主な研究分野】
障害者福祉、障害者虐待防止、差別解消、成年後見制度、意思決定支援、共生社会の実現



【担当科目】
※／認知症ケアの基礎理論／ニーズとイノベーション／福祉アドミニストレーション



宮島 渡 特任教授

これまでの法人及び施設経営の経験と地域包括ケアシステムに向けた取り組みが皆さんの実践研究の一助になれば幸いです。

【略 歴】
日本大学商学部会計学科卒業、筑波大学院人間総合科学研究科生涯発達専攻カウンセリングコース修了、介護福祉士ファーストステップ研修講師、社会福祉士、認知症介護指導者、社会福祉法人恵仁福祉協会理事長を歴任。一般社団法人全国認知症介護指導者ネットワーク代表、NPO法人全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会理事長。
【主な研究分野】
施設機能の地域分散、施設での中重度対応に向けた取り組み



【担当科目】
※／子ども家庭福祉の理論と方法／児童虐待対応SW／子ども家庭福祉分野事例研究／SVⅡ 他



須江 泰子 講師

福祉の現場では、時に答えのない葛藤を感じることもあります。実践を言語化し、志のある仲間と共に理論や別の枠組みから捉え直すことで、専門職ができることを一緒に考えていきたいと思います。

【略 歴】
1992年、立教大学文学部教育学科卒業。2003年、筑波大学大学院修士課程教育研究科カウンセリング専攻修了。社会福祉士、公認心理師、臨床心理士。浦和市役所を経て埼玉県庁入職。身体障害者福祉司、児童福祉施策等に就任後、児童相談所児童福祉司として約20年勤務。東京大学医学部附属病院精神神経科を経て2022年4月より現職。
【主な研究分野】
子ども家庭福祉、家族支援、児童虐待対応と予防、相談援助技術



【担当科目】
※／実践研究方法論／SVⅠ／ジェネリックSW／インタープロフェッショナルワーク／医療・地域ケア分野事例研究／SWアプローチ／家族システムズアプローチ／SWの価値と規範 他



木戸 宜子 教授

昨今、ソーシャルワーク実践、スーパービジョンが目立ってきています。実践者として専門性を高めるには、実践のふりかえり、意味づけが必要です。そのために実践の根拠としてのソーシャルワーク理論・アプローチを重視し、実践内容を客観的に分析し、考察する視点を養っていききたいと考えます。

【略 歴】
1989年、日本社会事業大学卒業。社会福祉士。1990年、国立東京病院ソーシャルワーカーとして勤務。2002年、日本社会事業学校研究科専任教員。2003年、日本社会事業大学大学院博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。2004年、日本社会事業大学専門職大学院助教授を経て現職。
【主な研究分野】
地域を基盤としたソーシャルワーク実践・理論、ソーシャルワークスーパービジョン



【担当科目】
※／実践の省察と評価／実践研究方法論／福祉人材育成論／インタープロフェッショナルワーク／高齢者支援・医療分野事例研究／在宅療養支援の方法／高齢者保健福祉研究／福祉と疾病



鶴岡 浩樹 教授

総合医として地域医療に従事して31年目。大学病院、一般病院、診療所、介護保険施設など地域を舞台に様々な設定で、保健・医療・福祉・介護に関わる方々と仕事をしてきました。この経験を活かし、皆さんと共に現場の課題を考えていきたいと思います。

【略 歴】
1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県盛沢町民病院、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年、つるかめ診療所開設。2013年より現職。認知症サポート医。
【主な研究分野】
地域医療、プライマリ・ケア、在宅医療、多職種連携、福祉人材育成、EBM、介護ロボット



【担当科目】
※コミュニティSW／生活困窮者支援／地域共生分野事例研究／共生社会の仕組みとデザイン／SWの価値と規範



北川 進 講師

福祉現場では、情熱と実践力だけでは越えられない壁に憤りや無力感を感じる事が時にあります。その壁に何度も心折れそうになりながらも立ち向かってこられたことでしょう。その壁を越えるために理論を学び合い、ご自身の答えをつかんで頂きたいです。

【略 歴】
1996年、日本社会事業大学卒業。東北福祉大学大学院総合福祉学研究科修士課程修了。児童養護施設指導員を経て宮城県社会福祉協議会入職。主に地域福祉業務に携わり、2012年4月より2年間、東日本大震災被災地である石巻市社会福祉協議会に派遣され、ささえあい総括センター所長として被災者支援業務に従事。震災から11年間被災者支援業務を担当。2023年4月より現職。社会福祉士。
【主な研究分野】
災害時ソーシャルワーク、災害ボランティア支援、社会福祉協議会における地域福祉展開

▶ 兼任教員（本学教員） ※黒字:担当科目

小田 美季 教授	障害福祉研究
小原 真知子 教授	SW理論研究
賀川 信幸 教授	研究課題設定論／福祉プログラム評価論総論
梅津 寛子 講師	リスクマネジメント
江畑 直樹 講師	組織開発
大衛 重光 講師	職場のメンタルヘルス
木幡 伸子 講師	家族システムズアプローチ
園田 巖 講師	保育SW
田中 千枝子 講師	SW理論研究
土屋 佳子 講師	スクールSW
猶木 貴彦 講師	労働法規
松山 毅 講師	SWの価値と規範

▶ 兼任教員（非常勤） ※黒字:担当科目

渋谷 篤男 客員教授	※／地域福祉と地域包括ケアシステム／共生社会の仕組みとデザイン
浦原 基道 客員教授	社会保障総論
宮島 清 客員教授	社会的養護実践論
古屋 龍太 名誉教授	※／SWの価値と規範／スーパービジョンⅡ／障害者支援の理論と方法

修了生の声

※掲載されている内容は取材当時(2023年3月)のものです。



1年履修

転換期にある精神科医療
大学院での学びを通し
問題解決の糸口を探る

岩崎 香織さん
2022年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
医療法人篤仁会 勤務

研究テーマ

精神保健福祉士の協働志向性

精神科医療機関で精神保健福祉士として働いて 15 年が経ち、後輩の育成や業務のマネジメントをする機会も増えました。ここで少し立ち止まり、実践を振り返る時間が必要だと感じて専門職大学院に進学。この職種特有のジレンマや葛藤は、バーンアウトや離職の要因となり、専門職としての成長や人材育成に関わる課題です。解決の糸口は、職員が同じ価値観や連帯感を持って協働することにあるのではと考え、研究テーマに設定。社会情勢や世論などに大きく影響されるソーシャルワーク実践は、今まさに転換期にあると感じます。現在の価値観や方法論が可変的なものであることを心に留め、大学院での学びをふまえて今後もしなやかな実践を重ねていきたいです。

学問と仕事を両立する工夫 仕事前に勉強時間を確保

毎日1時間程度早めに出勤し、課題や研究活動の時間に充てました。帰宅後は疲れていても眠くなるまで1ページでも文献を読み、ゼミの準備をするように心がけました。ゼミでは自分の考えを言語化して伝えることの大切さを再認識。職場でのミーティングや研修で意図的に活用しています。



1年履修

一年で吸収しきれない
ほどの学びを経験。
今後も自己覚知を深めたい

西野 彰啓さん
2023年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
NPO法人リベラヒューマンサポート 勤務

研究テーマ

青年期、発達障害等グレーゾーンにある不安解消
～就労ナビ作成を通して、当事者と向き合う中で得た気づき～

精神保健福祉士として、発達障害などがある方の支援を主に行っています。児童期から対応している利用者（通所生）が就労に挑戦して困難に直面するケースが多々あり、法人支援の質を向上させるため専門職大学院への進学を決めました。実践研究では就労ナビゲーションブックの作成や、通所生の気持ちの変化を記録。その過程でエンパワメントの大切さと、通所生の抱える不安や悩みに専門職スタッフが「踏み込む覚悟」を持つ大切さに改めて気づきました。大学院で学んだ多くの理論や実践を今後数年かけて咀嚼し、自己覚知を深めたいです。そして、社会のさまざまな場面で当事者がエンパワメントを感じられるような地域福祉の一助となれればと思います。

学問と仕事を両立する工夫 感謝の気持ちが原動力に

職場の仲間や理事長の理解もあり、職務を実践研究の場としていたため両立という意味では苦勞を感じませんでした。専門職大学院の先生方や院生の真摯で誠実な「まなざし」や取り組む「姿勢」から、私の心に自然と感謝の気持ちが湧き、研究をやり遂げる原動力になりました。



2年履修

法人の向かうべき
方向性を見極め、
今後の運営に生かす

栗田 昌宗さん
2023年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
社会福祉法人 天童会 勤務

研究テーマ

支援部門と管理部門の連携を深めるために

私は管理部門に所属しています。社会福祉法人制度改革以降、経営のあり方は大きく変化しました。理論に裏付けされたマネジメントや福祉経営管理のみならず、ソーシャルワーク、利用者支援の背景・方法、人材育成、福祉サービス等に関する理解を深め、今後の施設運営に生かしたいと考えていた時に、専門職大学院の存在を知りました。社会福祉法人は、支援部門の入所者に対するサービスで成り立っています。管理部門が支援部門へのサポート体制を構築して連携を深めることで、法人全体のサービスが向上すると考え研究テーマとしました。今後は法人内で奨学金制度を整えて他の職員にも学びの機会を作り、運営に還元していきたいと考えています。

学問と仕事を両立する工夫 オンラインと対面の併用

在学中の2年間はコロナ禍と重なり、緊急事態宣言が度々発令されました。私が勤務する施設内でもクラスターが発生し、その都度緊急対応に追われることに。当時は仕事との両立が本当に大変でしたが、オンライン授業と対面授業を併用でできるよう配慮してくださり、非常に助かりました。



2年履修

大学院での学びと仲間の
経験や支援観に触れ、
多くの刺激と力をもたらった

木嶋 優子さん
2023年3月 専門職大学院 福祉マネジメント研究科 修了
医療法人社団武蔵野会 勤務

研究テーマ

メンバーがやりがいと成長を感じられる部署づくり
～部署における責任者の役割とは～

急性期病院の医療ソーシャルワーカーとして勤務しています。メンバーが専門職としての誇りを持って働ける部署にしたいと常に考えていますが、そのマネジメント力不足を感じていた時に、専門職大学院で学んでいる先輩から声をかけていただきました。研究では自分の実践の振り返りとメンバーへのアンケートやインタビューを通して、マネジメントとスーパービジョンの関連性を整理。責任者としての役割を考察しました。大学院の授業で学んだことや気づき、院生仲間のたくさんの経験や支援観に触れ、自分の未熟さを痛感するとともに、多くの刺激とエネルギーをもらいました。今までよりも思考が深くなり、広い視野で仕事を実践できていると感じます。

学問と仕事を両立する工夫 土曜日のシフト調整

講義と演習のため土曜日のお休みが多くなることにに対し、職場のメンバーから理解を得られたことが大きいです。平日は主にオンラインで授業を受けました。大変な時はゼミの仲間と励まし合って乗り切ったのも良い思い出です。長期履修なので2年かけてじっくり学ぶことができました。

実践研究テーマ

講義で得た理論や解釈を用いて自らの実践を省察し、抽出された新たな課題に意図的に取り組みます。この一連の過程が実践研究です。

〈2022年度〉

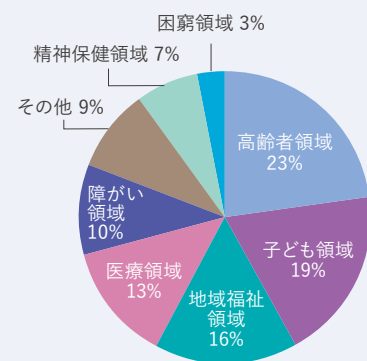
- A居宅介護支援事業所のケアマネ集団が持つ強みと役割バランス
～管理者としての省察を通して～
- 今求められる特別養護老人ホームの機能強化に向けての一考察
～ACP導入への取り組みを通じて～
- 多様な人材が活躍できる介護現場へ
～現場と共に行う「対話」を軸にした介護職員の育成～
- ソーシャルワーカーが住民として地域に関わることの意義について
- 児童相談所の「困難事例」
～介入型アプローチの限界とソーシャルワークの必要性について～

- 「包括的相談支援」を推進する初期相談のあり方に関する一考察
～アセスメント補助シートの有効性の検討～
- 児童虐待予防に向けた母子保健と児童福祉の対話の場がもたらす連携
～市区町村における「こども家庭センター」の開設に向けて～
- 精神保健福祉士の協働志向性
～離職抑止策を契機とした集団意識の考察と展望～
- 職員の障害理解に関する研修の在り方
～職員と体験型研修を交えた研修内容を完成し、支援の質の向上を図る～
- 地域の在宅療養患者のための新たな入院システムの構築
～地域包括ケア病棟の入退院支援に関わるSWの役割～

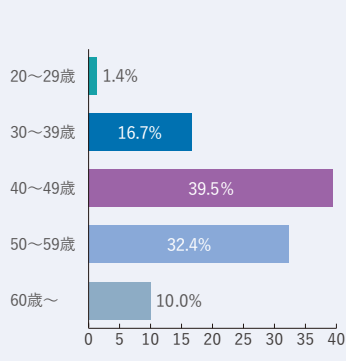
- 意思決定支援プロセスに基づく記録が支援者に与える影響について
～放課後等デイサービスでの取り組みを通して～
- 青年期発達障害等グレーゾーンにある不安解消
～就労ナビ作成を通して、当事者と向き合う中で得た気づき～
- 大学生の学生相談に必要なソーシャルワーク機能と組織体制について
～奨学金業務をきっかけに学生支援を考察する～
- 福祉職ファイナンシャルプランナーの専門性の考察
～実務家へのインタビュー調査を踏まえて～
- 介護職が抱える感染対策の課題に着目した感染管理プログラムの考察

数字で見る専門職大学院

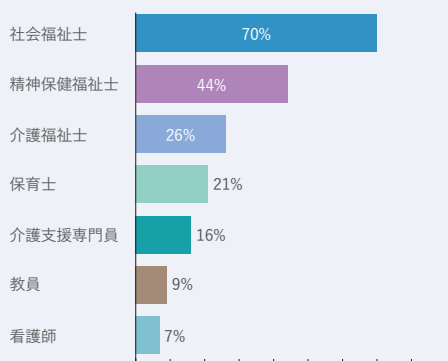
〔領域別〕 ※2022年度修了者



〔年代別〕 ※2019年度～2023年度入学者



〔保有している資格〕 ※2023年度入学者



研究大学院 社会福祉学研究科

社会福祉を学術的に探究し、
社会課題解決の
糸口を見出す。

4つの特長

1 実践的な「研究能力向上」に 力を注ぐ大学院

今日の社会福祉は、福祉現場での実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、計画と研究を抜きには進められなくなっています。本研究科では、実践研究者としての、あるいは研究的実践家としての「研究能力」を高めることを主眼としています。

2 学びの概要(博士前期課程・博士後期課程)

博士前期課程(修士課程)は、講義・演習・修士論文指導を体系的に学べる、「領域別研究」と「研究方法論」等の科目で構成しています。博士後期課程(博士課程)は、博士論文指導と論文作成に至るまでの予備審査で構成しています。

3 人材輩出

博士前期課程は「社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践研究者及び研究的実践家の養成」、博士後期課程は「社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践研究者および研究的実践家の養成」「社会福祉実践の向上や発展に貢献する優れた実践家・研究者を育成できる教育者の養成」を主たる目的とし、新しい社会福祉系大学の教育・研究モデルの構築を目指しています。

4 福祉プログラム評価履修コースを開設

社会福祉学研究科では、2010年4月より「福祉プログラム評価履修コース」を開設。プログラム評価とは、よりよい社会プログラムを構築し、改善を図り、その存廃や発展の方向性に関する意思決定をするために行われる体系的かつ科学的なアプローチ法のことです。効果的な福祉プログラムの形成・向上に強い影響力をもつプログラム評価者および評価研究者の育成を目指しています。

研究能力向上に力を注ぐ大学院

社会福祉学研究科は、複雑化してきている社会福祉問題、学際化してきている社会福祉研究に対応して、社会福祉学の理論化と社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めることを目的に設置されました。

今日の社会福祉は、福祉現場での臨床実践にしても、行政での政策・計画の立案・実践・評価にしても、評価と研究を抜きには進められなくなっています。前期課程では、社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者・研究的実践家を、後期課程では、社会福祉実践の向上の発展に資することのできる高度の実践的研究者・研究的実践家・教育者を育成します。

アドミッションポリシー

求める学生像

本学大学院社会福祉学研究科博士前期課程では、社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者及び研究的実践者を養成する目的で、以下のような人材を求める。博士後期課程では、研究者として自立して研究活動を行い高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、社会福祉理論、政策及び実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究者及び研究的実践者、ならびに優れた実践家・研究者を育成できる教育者を養成する目的で、以下のような人材を求める。

1. 研究に基づく社会福祉実践向上への強い目的意識を有する者

現在社会の変化に伴って変動する社会福祉のニーズに対して常に鋭敏な関心をよせ、それらのニーズをもつ人への有効な支援のあり方を科学的に解明して、社会福祉理論、政策及び実践の向上に資することに強い目的意識と熱意、使命感を有する者。

2. 社会福祉理論、政策及び実践的研究を遂行する能力を有する者

現代社会の多様な社会福祉ニーズの解明と科学的な問題解決、社会福祉理論、政策及び実践の向上への貢献を行うために、必要な社会福祉学の基礎知識と総合的な学力を有し、柔軟で論理的な思考により社会福祉理論、政策及び実践的研究を遂行しようとする者。

3. 国際的な視点を有する者

アジアを含めて広く世界の社会福祉に関心を寄せ、国際的な視点をもって活躍したいと考える者。

4. 生涯にわたる自己研鑽する者

生涯教育やリカレント教育によって、生涯にわたって自己研鑽に励もうと考える者。

博士前期課程(修士課程)

修業年限	2年(昼間)
定員	15名
学位	修士(社会福祉学)

博士後期課程(博士課程)

修業年限	3年(昼間)
定員	5名
学位	博士(社会福祉学)

研究科長メッセージ



複雑化する現代社会に
対応できる高度な専門的職業人
及び研究者を育成

社会福祉学研究科
研究科長
小原 眞知子 教授

本学の社会福祉学研究科は、研究教育者、臨床実践家、政策・計画実践家として必要な研究能力を高めると共に、グローバルな視野とローカルな視点をもって、社会福祉学を学際的に取り組む研究と教育を進めることを目的にしています。変化する人々や社会のニーズを分析し、組織、機関、地域社会、国際社会の要請に応え、現場に学び、地域社会や広く世界に研究成果を還元するために、理論的水準と実践的能力を備えた高度な専門的職業人及び研究者の育成を目指します。

本研究科の前期課程では、社会福祉実践の向上や発展に貢献できる実践的研究者・研究的実践家の養成、後期課程では、社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究者及び研究的実践家、優れた実践家・研究者を育成できる教育者を養成します。本学の建学精神とする博愛の精神に基づく社会貢献、社会福祉の理論を窮め、社会福祉実践を常に大切にする、そして、異なる文化、異なる民族、異なる国籍の人々と共に生きる社会の創出は、時代を超えて今なお息づいており、人々のウェルビーイングを追究し、実学である社会福祉学を科学することが本研究科の使命であると考えています。

Pick Up

福祉の古典を 数多く所蔵する図書館

本学図書館は、中央社会事業協会(現在の全国社会福祉協議会)が1934(昭和9)年に設置した「社会事業研究所図書室」の蔵書を引き継いで開設し、大学附属図書館として教員・学生の教育・学習・研究に資する国内外の図書資料の整備拡充に努めています。そのため、戦前の貴重な図書・資料とともに、戦後の社会福祉の重要な図書・資料も豊富に所蔵しています。現在蔵書数は26万点に達しています。



博士前期課程（修士課程）

一般教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座

社会福祉学の理論化と、社会福祉実践に必要な技術の修得に関する研究と教育を進めます。

Point
1

社会福祉の広範な知識と研究方法を体系的に学修

社会福祉の歴史や理論をベースとして、専門領域の知識を深めつつ、研究方法を学び、自らの研究に適用させます。

Point
2

研究テーマに応じた指導教員のきめ細かな指導

それぞれ指導教員が配置され、多様化・細分化する研究テーマの深い指導を可能にしています。研究計画発表会・修士論文中間報告会・修士論文発表・審査会などでの発表が義務づけられ、研究成果の発表方法の指導も行われます。

Point
3

大学院専用の実習室など充実した教育環境

研究室やコンピュータを設置した大学院専用の情報計画実習室など環境設備が充実。日本社会事業大学社会福祉学会での発表など新しい社会福祉研究教育を志向しています。

Point
4

現場で活躍する福祉関連従事者も在籍

社会福祉現場で働いている人が現職のまま博士前期課程に在籍し、社会福祉現場の課題と社会福祉研究・教育とを結びつけた研究を進めるリカレント教育及び福祉関係職経験者教育システムを実現しています。

博士前期課程2年間の流れ

1 年 次

2 年 次

4 月

■ 入学式
■ オリエンテーション
■ 指導教員決定
■ 履修・コース登録

履修方法や学生生活の説明を理解し、指導教員を決定し、履修登録する。
「福祉プログラム評価履修コース」の登録は1年次に行う。

6 月

■ 学内学会
（日本社会事業大学社会福祉学会）

大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在学生も参加し、学会の運営に協力する。

10 月

■ 研究計画発表会

研究計画の発表・質疑を通じて、2年次の修士論文中間報告会までに必要となる事項を確認する。

1 月

■ 修士論文発表・審査会

2年次生の発表や質疑応答を聞くことを通して研究方法や発表方法などを学ぶ。

4 月

■ オリエンテーション
■ 履修登録
■ 修士論文題目届提出

修了要件を確認のうえ履修登録し、修士論文の題目を届け出る。

6 月

■ 学内学会
（日本社会事業大学社会福祉学会）

大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在学生も参加し、学会の運営に協力する。

10 月

■ 修士論文題目変更届の締切

4月に登録した修士論文の題目を大きく変更する場合は変更届を提出する。

1 月

■ 学位申請・修士論文提出

修士論文作成ガイドラインを参照しつつ修士論文を提出し、学位申請を行う。

■ 修士論文発表・審査会

修士論文提出者は発表を行い、教員による担当審査を含む質疑などの審査がなされる。

学位授与
修士（社会福祉学）取得

カリキュラムの構造（2023年度参考）

社会福祉基盤科目

社会福祉の歴史や理論を深める

● 社会福祉学理論研究・学説史
（教授 村田文世）
● ソーシャルワーク理論研究Ⅰ
（教授 小原真知子、非常勤講師 田中千枝子）
● 社会福祉歴史研究方法論Ⅰ
（非常勤講師 松山毅）

→

領域別科目

専門領域の知識を深める

● 福祉政策研究Ⅰ・Ⅱ
（教授 高橋幸生、准教授 佐々木貴雄）
● 地域福祉研究Ⅰ・Ⅳ
（教授 田村真広、菱沼幹男）
● 子ども家庭福祉研究Ⅲ・Ⅳ
（准教授 内田宏明、宇野耕司）
● 障害福祉研究Ⅰ・Ⅱ
（教授 小田美季、蒲生俊宏）
● 高齢者保健福祉研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
（教授 梶原洋生、下垣光、鶴岡浩樹、壬生尚美、森千佐子、准教授 永嶋昌樹）
● アジア社会福祉研究Ⅰ
（准教授 ヴィラーグヴィクトル）

→

研究方法論科目

福祉実践を変える力を身につける

● 社会福祉学研究方法論概論（研究科長他）
● 研究課題設定論Ⅰ・Ⅱ
（教授 蒲生俊宏、田村真広、賛川信幸、村田文世）
● 社会福祉調査研究法基礎論
（教授 竹内幸子、有村大士、賛川信幸、講師 新藤健太）
● 実践研究のための量的データ分析方法論
（教授 竹内幸子、有村大士、講師 新藤健太、非常勤講師 朴 堯星）
● 実践研究のための質的研究方法論（講師 新藤健太）
● 福祉プログラム評価論総論（教授 賛川信幸）
● 福祉プログラム評価論各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
（教授 賛川信幸、講師 新藤健太、非常勤講師 大森正博、平岡公一）
● 福祉プログラム評価特別講義Ⅱ（教授 賛川信幸）

専門英語科目

国際的視野を持ち、海外文献を読みこなすための専門英語を学ぶ

● 社会福祉学専門英語Ⅰ・Ⅱ
（講師 デバコタジバナト）

研究演習

演習による事例検討や研究方法、個別指導により考察を深め、論文としてまとめる

● 社会福祉学研究演習Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ^(※)
● 調査データ分析法演習
（教授 竹内幸子、有村大士、講師 新藤健太）
● 研究発表論演習^(※) ● 論文指導^(※)

実習

理論のみならずフィールドを理解し実証を行う

● 社会福祉学研究実習Ⅰa・Ⅰb^(※)
● 福祉プログラム評価実習Ⅰa・Ⅰb
（教授 賛川信幸）

(※)2023年度 演習・実習・論文指導 担当教員

教 授：有村大士、小田美季、小原真知子、梶原洋生、蒲生俊宏、木村容子、下垣光、竹内幸子、田村真広、鶴岡浩樹、賛川信幸、菱沼幹男、壬生尚美、村田文世、森千佐子
准教授：ヴィラーグヴィクトル、内田宏明、宇野耕司、佐々木貴雄

開講科目系列時間配置

大学院の授業を木・金・土曜日に集中。社会福祉現場との共存・共修がしやすい時間割構成としています。
※一部の科目は、他の曜日に開講する場合があります。

	月	火	水	木	金	土
1時限(9:00～10:30)						
2時限(10:40～12:10)						
3時限(13:00～14:30)						
4時限(14:40～16:10)						
5時限(16:20～17:50)						
6時限(18:00～19:30)						

一部の科目が認定社会福祉士制度 研修認証科目に認証(社会福祉士有資格者対象)

認定社会福祉士認証・認定機構が認定している「認定社会福祉士」の認定制度の研修として、本大学院の7科目(12単位)が2021年度より認証されています。2020年9月から認定社会福祉士の取得ルートに、新たに「大学院(教育基幹)ルート」が新設され、在籍している大学院で対象の認証科目を12単位取得した場合に適用されます。

詳細は、認定社会福祉士認証・認定機構のホームページをご確認ください。
<https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/index.html>



博士後期課程（博士課程）

新しい社会福祉研究と教育を担う「研究者の養成」を主な目的としています。

Point 1

複数教員による研究サポート

大学院生は論文指導教員の中から主指導教員、その他の教員の中から1名を副指導教員とし、それぞれの担当教員から研究指導を受けます。福祉政策、地域福祉、ソーシャルワーク実践、福祉プログラム評価、保健医療福祉、子ども家庭福祉、障害福祉、介護福祉を担当する教員が研究指導科目を開講しています。

Point 2

3段階の予備審査、綿密な指導の下で、博士論文を執筆

博士論文の審査については、第1次予備審査から第3次予備審査までのプロセスを経て、最終審査、最終試験を受けます。予備審査では、1年次から3年次までの各段階における研究計画書等の申請書類を提出し、その計画書等に基づき、口述試験が行われ、第2次予備審査に合格した者は博士論文執筆に取りかかります。

Point 3

評価研究者としての研修を積む「福祉プログラム評価履修コース」

博士前期課程のプログラム評価履修コースに加えて、博士後期課程では福祉プログラム評価の知識を養うと共に指導教員の共同研究や外部資金を活用したプロジェクト研究に関わり、プロジェクトマネジャーの経験を通して自立した評価研究者としての研鑽を積みます（福祉プログラム評価履修コースの詳細はp.23をご参照ください）。

Point 4

国内外を舞台に、共同研究員として研究プロジェクトに参加

本学社会事業研究所が行う研究プロジェクトに共同研究員やリサーチ・アシスタントとしての登録を経て、海外の社会福祉研究及び国内の各種社会福祉調査、社会福祉研究プロジェクトに参加し、研究を深めると共に、社会福祉に関する先駆的・実践的研究活動を実現します。また、日本学術振興会「特別研究員他」の獲得に向けた経費の補助を行う等、研究者が広い視野をもって福祉の研究・実施に取り組める環境が整っています。

Point 5

それぞれの研究成果を論文にまとめ、関係学会で発表

大学院生は研究指導の成果を論文にまとめ、学術雑誌に投稿する他、その内容を社会福祉学会など関係学会で報告、発表します。

博士後期課程 3年間の流れ

1年次

4月

●オリエンテーション
●指導教員決定
●履修・コース登録

履修方法や学生生活を理解し、研究テーマ、要点及び主指導教員、副指導教員を決定し、履修登録する。「福祉プログラム評価履修コース」の登録は1年次に行う。

5月

●博士後期課程研究論文発表会

2年次生の発表および質疑応答を聞き、研究方法や発表方法を学ぶ（発表者は第1次予備審査合格者）。

2年次

6月

●学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）

大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生学生も参加し、学会の運営に協力する。発表内容を「社会事業研究」に掲載する。

12月～1月

●博士論文第1次予備審査

【審査項目】
研究計画書、先行研究レビューについて
①研究目的とその意義の明確さ
②先行研究レビューの網羅性、批判的視点及び研究目的との関係
【口述試験】
1) プレゼンテーション
研究計画と先行研究レビューの概要を報告する
2) 討論、質疑応答
3) 審査委員
主指導教員、副指導教員、その他審査委員の3名

5月

●博士論文第1次予備審査通過後の発表

博士後期課程2年次5月に実施する博士後期課程論文発表会にて、第1次予備審査における指導事項を踏まえた報告を行う。論文発表会では、研究計画と先行研究レビュー及びこれまでの成果について発表を行う他、第1次予備審査における指摘事項とそれに対する対応を明らかにする。報告にあたり、主指導教員、副指導教員の指導を受けた上で発表する。

6月

●学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）

大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生学生も参加し、学会の運営に協力する。発表内容を「社会事業研究」に掲載する。

12月～1月

●博士論文第2次予備審査

【審査項目】
研究計画書について
①研究計画全体の科学性、整合性
②翌年度10月またはその次の5月までに完成する可能性
【口述試験】
1) プレゼンテーション
2) 討論、質疑応答
3) 審査委員
主指導教員、副指導教員、その他審査委員の3名

3年次

5月

●博士後期課程論文発表会

専任教員と在生学生は全員参加する。

6月

●学内学会（日本社会事業大学社会福祉学会）

大学院生は全員が会員であり、研究発表の機会となる。発表者以外の在生学生も参加し、学会の運営に協力する。発表内容を「社会事業研究」に掲載する。

11月～2月

●博士論文第3次予備審査

【審査項目】
研究論文について
①研究目的の明確さと重要性
②研究方法、分析方法、論述の適切さ
③研究結果のオリジナリティと社会的意義
【口述試験】
1) プレゼンテーション
2) 討論、質疑応答
3) 審査委員
審査委員5名

2月

●最終審査及び最終試験〈博士論文最終審査〉

【審査項目】
研究論文について
①研究目的の明確さと重要性
②研究方法、分析方法、論述の適切さ
③研究結果のオリジナリティと社会的意義
〈最終試験〉
【審査項目】
①研究課題を科学的に追求する自立した研究能力
②社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究能力
③社会福祉学の豊かな学識

学位授与 博士（社会福祉学）取得

入学

博士論文第1次予備審査

口述試験 プレゼンテーション、研究計画と先行研究レビューの概要報告、討論、質疑応答

研究論文発表会

第1次予備審査の指摘事項などを踏まえた研究発表

博士論文第2次予備

口述試験 プレゼンテーション、討論、質疑応答

審査

質疑応答

博士論文第3次予備審査

博士論文審査 口述試験（公開） プレゼンテーション、討論、質疑応答

最終審査

研究指導科目

[研究指導科目及び担当者一覧（2023年度）]

研究指導科目の名称	必修単位	自由選択単位	科目担当者
社会福祉学専門研究演習Ia(1年次)	2		教授 有村 大士 教授 小田 美季 教授 小原 真知子 教授 木村 容子 教授 田村 真広 教授 鶴岡 浩樹 教授 賛川 信幸 教授 壬生 尚美 教授 村田 文世 教授 森 千佐子 准教授 佐々木 貴雄
社会福祉学専門研究演習Ib(2年次)	2		
社会福祉学専門研究演習Ic(3年次)	2		
社会福祉学専門研究演習II		2	
社会福祉学専門研究演習III		2	
社会福祉学専門研究演習IV		2	
社会福祉学専門研究演習V		2	教授 有村 大士 教授 小田 美季 教授 小原 真知子 教授 木村 容子 教授 田村 真広 教授 鶴岡 浩樹 教授 賛川 信幸 教授 壬生 尚美 教授 村田 文世 教授 森 千佐子 准教授 佐々木 貴雄
社会福祉学専門研究演習VI		2	
福祉プログラム評価実習II		1	教授 賛川 信幸
博士論文指導I(1年次)	2		社会福祉学専門研究演習の科目担当者と同じ（同上）
博士論文指導II(2年次)	2		
単位数	10		

福祉プログラム 評価履修コース

本履修コースでは、社会福祉実践現場はもちろんのこと、行政、国際機関など、様々な領域において、新しい切り口による福祉プログラム評価のアプローチ法を修得することができます。

履修コースの履修プロセスと コース修了後に期待されるキャリアパス

```
graph TD
    A[対象者] --> B[博士前期課程入学・プログラム評価履修コース選択]
    B --> C[博士前期課程・プログラム評価履修コース・コースワーク]
    C --> D[プログラム評価論 講義科目群]
    C --> E[研究方法論 講義科目群、専門英語、その他科目]
    D --> F[プログラム評価実習 共同研究、実践現場]
    E --> F
    F --> G[修士論文 プログラム評価に関わるもの]
    G --> H[前期課程修了者]
    H --> I[博士後期課程入学・プログラム評価履修コース選択]
    I --> J[博士後期課程・プログラム評価履修コース・コースワーク]
    J --> K[プログラム評価論 講義科目群*]
    J --> L[研究方法論 講義科目群、専門英語、その他科目*]
    K --> M[プログラム評価研究のリサーチ・アシスタント、プロジェクトマネジャー、プログラム評価講義・演習のティーチング・アシスタント]
    L --> M
    M --> N[博士論文 プログラム評価に関わるもの]
    N --> O[後期課程修了者]
    O --> P[独立したプログラム評価研究者として行政・社会福祉実践現場、評価関連コンサルティング企業／NPO法人、国際機関、外国政府、ODA評価関連機関などに勤務、プログラム評価論を教授できる大学教員になる]
```

*前期課程未履修の者

22

Graduate Schools of Japan College of Social Work 23

教員×院生 対談

研究大学院
社会福祉学研究科
有村 大士教授研究大学院
社会福祉学研究科 博士前期課程
吉田 真依子さん福祉の課題は生きることそのもの
多種多様な立場の声に耳を傾け、研究を深化させる

有村 吉田さんは児童発達支援センターで働いておられ、現場で感じた課題の解決策を見いだすために、大学院に進学されました。

吉田 未就学児を支援しており、就学する際の情報伝達などにおいて地域との連携が不十分だと感じていました。そこで、子どもやそのご家族が児童発達支援センターを離れても不安なく暮らせるように、何ができるのかを研究したいと考えました。国や地方自治体の施策にも関わっている有村先生のゼミで、検討会を視聴したり、研究の場にもご一緒に、貴重な学びを得ています。

有村 私自身が迷いながら、考えながら、様々な場所で自分なりの役割を果たそうともがいている姿を見て、吉田さんなりの研究への向き合い方、活かし方を作っていただければと思います。吉田さんは学部

のゼミにも参加し、私と一緒にコメントもしていただいています。

吉田 学部生の数だけ研究テーマがあるため、とても勉強になります。毎回考える機会をいただいていますね。

有村 学部生、大学院生、そして教員であっても、「問う」という意味では対等です。特に学部生は話題が幅広い

ため、大学院生として私と共に自分の見解を言語化して伝えるプロセスを2年間繰り返すことは、飛躍的な成長につながります。

吉田 大学院のゼミには、福祉施設で暮らされていた当事者や幅広い年代のOB・OGなど、さまざまな人が来られますね。

有村 福祉の課題は生きることそのものですから、多種多様な立場の方と共に「問い」に向き合うことは重要

です。他者と対話をすることで自分の研究テーマを見定め、深化させてほしいと思います。

吉田 はい。児童発達支援センターを離れる際に応援してくださった子どもたちやご家族に恩返しができるように頑張ります。

有村 吉田さんは障がいのあるお子さんへの支援をテーマに研究されていますが、それは単に対象の子どもたちやご家族のためだけではなく、当事者が生きやすい社会を考えることは、全ての人が自分らしく生きることのできる社会を考えることにつながります。大変なこともあるかもしれませんが、吉田さんらしさや思いを大切に、研究に取り組んでください。

主体性を尊重した指導に切磋琢磨できる環境
研究成果を社会に還元するべく研鑽を積む日々

小原 工藤さんは留学生教育や日本語教育が専門で、大学で教壇に立つとともに、外国籍住民の支援にも携わっていますね。

工藤 ボランティアや地域の方と一緒に活動するうちに、言語教育面の関わりだけでなく生活支援にも興味を持つようになりました。以前は福祉系大学に勤務していたこともあり、その先生方から「日本社会事業大学大学院は社会人でも学びやすく、社会福祉学分野で非常に質の高い教育研究を展開している」と聞き、進学を決意しました。

小原 私のことも探して連絡くださいましたね。

工藤 進学を検討していた時に自分の研究テーマと合っている先生がいっぱいあるかを調べていたら、小原先生がソーシャルワーク理論・援助技術開発などを研究されていると知り、連絡させていただきました。現在は研究の進捗を先生に報告していますが、的確な助言や軌道修正をしてくださり心から感謝しています。

小原 私のゼミに入ると打たれ強くなりますよ。ただし、厳しさだけではなく、指導を通して皆さんの取り組みを全面的にサポートしたいと考えています。働きながら研究を続けることはとても大変ですから。

工藤 毎回愛のあるご指摘だと感じていますし、何よりも勉強になります。ゼミの皆さんと各自の研究内容やさまざまな情報を共有し、切磋琢磨できる点もありたいですね。

小原 私が誰かに指摘をしても、全員が自分事として受け止めているように感じます。研究は自分自身で道を定めて歩まなければならないですね。私たち教員が「自分の見解は話しますが、選び取るのは論文を執筆するあなた次第」と常になんて言うのはそのためです。社会福祉学は実学なので、研究テーマを徹底的に追究し、社会に還元できる成果を出してほしいと願っています。

工藤 自分の研究が誰かの幸せにつながることを実感できたら、この上ない喜びですね。博士号を取得し、社会に貢献できるよう全力を尽くしたいと思います。

研究大学院
社会福祉学研究科
小原 真知子教授研究大学院
社会福祉学研究科 博士後期課程
工藤 昭子さん

教員紹介

QRコードは、各教員のresearchmapにリンクします。



小原 真知子 研究科長 教授

前 後

【略歴】1991年、日本女子大学大学院文学研究科社会福祉学博士前期課程修了(社会学修士)後、日本医科大学第二病院、医療ソーシャルワーカーを経て、2000年、久留米大学文学部社会福祉学科講師、准教授。2005年、日本女子大学大学院人間社会研究科博士後期課程修了(社会福祉学博士)。2007年、東海大学健康科学部、准教授、教授を経て、2015年より現職。【主な研究分野】ソーシャルワーク理論・援助技術開発、保健医療福祉領域、高齢者福祉領域、国際ソーシャルワーク領域【著書】『統合的短期型ソーシャルワーク-ISTTの理論と実践』(監訳、金剛出版、2014)など

前期課程の方へ

社会福祉実践は理論の両輪で検討する必要があります。前期課程を通して、社会の動向を見据えた重要な研究テーマに取り組み、その成果を社会に還元してほしいと願っています。

後期課程の方へ

後期課程では、社会福祉を実学として客観的にエビデンスを提示し、研究テーマに沿って検証していくプロセスが必要です。各自のテーマを博士論文にする道のりは容易なことではありませんが、貴方の研究が社会に貢献できることを期待しています。



小田 美季 教授

前 後

【略歴】ケルン大学で教育学博士号(Dr.paed.)取得。ドイツからの帰国後、看護大学、福祉系大学などの専任教員を経て、2013年4月に本学着任。【主な研究分野】地域研究(日本とドイツ語圏の社会システムと社会的活動に関する比較研究)【著書】『精神科治療における家族支援』(分担執筆『海外における家族への行政的、社会的支援の動向:ドイツの家族支援』、中山書店、2010)

前期課程の方へ

前期課程では、研究をしていくための基礎を身につけるというのはどういうことかを自分自身で経験しながら考え、修了時には「研究の素養がある」状態の第一段階を築けたという実感をもてることを目指してください。

後期課程の方へ

後期課程では、前期課程での基礎習得に加えて、研究に対する自分の時間とエネルギーの捻出できる計画と動機付けを受験前から念入りにしておくことが次の段階へとつながります。



蒲生 俊宏 教授

前

【略歴】筑波大学博士課程心身障害学研究科中途退学。国立秩父学園(国立知的障害児施設)指導課(厚生教育・児童指導員)。日本社会事業学校専任教員(実習主任)を経て日本社会事業大学社会福祉学部教員。【主な研究分野】日本知的障害関係施設史研究・施設福祉と従事者(養成)・障害者福祉と障害者教育の歴史【著書】第四章 福祉施設における学校教育の補完とその独自性」中村満紀男(編著)『日本障害児教育史(戦後編)』(分担執筆、明石書店、2019)／「久保保久」津曲裕次(監修)『天地を拓く 知的障害福祉を築いた人物伝』(共著、日本知的障害者福祉協会、2013)／『知的障害者教育・福祉の歩み 滝乃川学園百二十年史』(分担執筆、滝乃川学園、2011)など

前期課程の方へ

日本知的障害関係施設史研究を中心に、社会事業や特殊教育の歴史に学びます。現場に残されている一次史料(データ)に向き合い、そこから何が見えてくるのかを共同議論したいと思います。



下垣 光 教授

前

【略歴】日本大学大学院博士後期課程満期退学。1987年から1996年まで聖マリアンナ医科大学病院神経精神科において診療技術員として痴呆性老人デイケア及び家族支援を行う。1996年より本学社会福祉学部の教員となり、現在に至る。【主な研究分野】認知症高齢者の支援(直接援助)における対応、在宅介護、家族援助)、高齢者のグループワークの方法論、認知症高齢者の環境を活かした支援(特に環境づくり)、認知症の普及啓発などによる地域支援、地域包括ケアシステムにおける医療・保健・福祉の連携【著書】『写真で見せる回想法』(共編著、弘文堂、2004)／『PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル』(共編著、中央法規出版、2010)／『在宅で暮らす認知症のある人のためのケアプラン作成ガイド』(編著、中央法規出版、2013)など

前期課程の方へ

高齢者福祉の特に認知症に関連する領域における福祉・介護の領域の研究は、現実を変えていく実践につながるものが求められます。内外の先行研究の検証及びフィールドワークによる実証的な研究の指導をしていきます。

前 …博士前期課程

後 …博士後期課程

(2023年4月現在)

有村 大士 教授

前 後



【略歴】日本子ども家庭総合研究所 子ども家庭福祉研究所 主任研究員。【主な研究分野】子ども家庭福祉。児童相談所、市区町村における子ども虐待対応、児童福祉施設など【著書】『ファミリー・グループ・カンファレンス;子ども家庭ソーシャルワーク実践の新たなモデル』(共訳、有斐閣、2005)／『子ども虐待(新版)』(共著、有斐閣、2008)／『一時保護所の子どもと支援』(共著、明石書店、2009)／『子ども家庭福祉の世界』(共著、有斐閣、2015)／『子ども家庭福祉』(共編著、ミネルヴァ書房、2016)など

前期課程の方へ

ゼミにおける受講生、及び教員との対話を通して、考えを深める作業を大事にしたいと思います。研究テーマに向き合い、考える作業を進める中で、自分自身の「考える」意味や意義も変わってくると思います。こだわりと柔軟さは一見矛盾するようですが、共に大切なものです。

後期課程の方へ

自立した研究者として、考える時間と過程を大切にしてください。文献を整理し、論文の焦点を絞る過程では、自分自身の持つ価値観や研究の意味に迷うことも多いことと思います。自分自身が対象の本質を捉えているのかを問い、研究の社会的意義を見失わずに研究を深めていきたいと思います。



梶原 洋生 教授

前

【略歴】新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科准教授を経て現職。【主な研究分野】福祉法学、司法福祉【著書】『福祉と医療の法学』(インデックス出版、2001)／『ホームヘルパーの医療行為』(共著、一橋出版、2002)／『介護福祉のための法学』(編著、弘文堂、2008)

前期課程の方へ

高齢者保健福祉の関連法について学び、解釈の論理について理解を深める。自己の課題とする法現象を体系的に考究する。係る法は多岐にわたるが、法の趣旨並びに法理を探り、その価値や制度リスクを研究する。



木村 容子 教授

前 後

【略歴】1993年、関西学院大学大学院社会学研究科博士前期課程修了(社会学修士)。1995年、(米国)コネチカット大学ソーシャルワーク大学院修士課程修了(Master of Social Work)。2010年、関西学院大学大学院人間福祉研究科博士後期課程修了(博士・人間福祉)。社会福祉法人愛和会・中筋児童館館長、京都光華女子大学准教授等を経て、現職。【主な研究分野】子育て支援、社会的養護、ソーシャルワーク実践理論・方法論【著書】『被虐待児の専門里親支援-M-D&Dにもとづく実践モデル開発-』(相川書房、2012)／『子ども家庭福祉<第3版>』(共編著、ミネルヴァ書房、2021)／『ソーシャルワーク論』(共編著、ミネルヴァ書房、2019)など

前期課程の方へ

自身の研究においてソーシャルワークのどのような価値と理論をもって事象を説明立てるのか、あるいは実践のあり方等を実証していくのか、社会に対するアカウンタビリティを果たした研究の基礎力を養いましょう。

後期課程の方へ

ソーシャルワークの価値や実践理論等理論的枠組みをもって、客観的にエビデンスを導く実証的なソーシャルワーク研究を志向していきます。そのためのクリティカルな思考や研究方法を習得する個別指導やピアの良さを活かした授業・ゼミを行っています。



竹内 幸子 教授

前

【略歴】1982年、東京大学理学部物理学科卒業。1987年、東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士号取得。理学研究所、Drexel大学、South Carolina州立大学、東京工業大学でポストドクトラルフェロー後、東京医科大学歯科大学助手を経て、1999年より日本社会事業大学助教授。2005年より同教授。【主な研究分野】福祉で用いる統計学、理論物理学など

前期課程の方へ

データに基づいた論文を理解し、また、調査結果に基づいて客観的な主張を展開するためには、統計的な考え方や、用いている解析に対する理解が必須です。基本的なところは全員に理解していただいていると思って授業を担当しています。

教員紹介



田村 真広 教授

前 後

【略歴】筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学、教育学修士。筑波大学教育学系、北海道教育大学釧路校を経て、2001年本学に着任、現在に至る。【主な研究分野】教育福祉論、福祉教育実践論、福祉科学学習指導論、学校カリキュラムの歴史と理論

【著書】『福祉科指導法入門』（共編著、中央法規出版、2002）／『あったこんな教育もあるんだ』（共編著、評論、2006）／『高校福祉科卒業生のライフコース』（共編著、ミネルヴァ書房、2008）／『いのち輝く』（共編著、ルック、2008）／『希望をつむぐ教育』（共編著、生活ジャーナル、2018）など

前期課程の方へ

子どもの貧困と地域振興、高等学校の教育改革、教師教育に研究関心があります。教育福祉と福祉教育の関連を探究するべく、多角的な視野から現実を切り取り、学際的に探究する手法を重視しています。

後期課程の方へ

教育福祉と福祉教育の関連を、歴史的かつ哲学的、学際的に探求します。最新の知見を取り入れつつ独立した研究の成果としてまとめていきます。



賛川 信幸 教授

前 後

【略歴】2008年、東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士（保健学）、NPO法人地域精神保健福祉機構（コンボ）研究員、本学非常勤講師を経て、現職。

【主な研究分野】精神障害当事者と家族のリカバリーに向けた支援プログラムの開発と改善、実践家のエンパワメント

【著書】『心理社会的介入プログラム実施・普及ガイドラインに基づく心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット』（分担著、NPO法人コンボ、2011）／実践家多面型エンパワメント評価の理論と方法（共編著、日本評論社、2019）など

前期課程の方へ

文献の批判的抄読およびプログラム評価の理解を通して、福祉課題と要因の分析、解決策の検討方法の体系的な習得を目指します。精神保健福祉分野を主専門としますが、社会福祉諸領域の課題にもアプローチします。

後期課程の方へ

博士前期課程で扱う内容をさらに掘り下げます。とくに文献の批判的抄読は海外の研究を広く扱い、国際的にも発信できる研究能力を身につけた研究者を目指して指導します。



壬生 尚美 教授

前 後

【略歴】関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了、博士（臨床福祉学）を取得。特別養護老人ホームの介護職員等を経て、中部学院大学短期大学部、大妻女子大学にて介護福祉士養成教育に携わり2017年4月より現職。

【主な研究分野】高齢者福祉施設介護の歴史、介護福祉実践方法、介護福祉教育など

【著書】『戦後高齢社会基本文献解説・解題』（共著、日本図書センター、2007）／『事例で学ぶ生活支援技術習得』（共編著、日総研、2008）／『特別養護老人ホームにおけるケアの実践課題』（単著、ドメス出版、2017）／『最新介護福祉士養成講座7生活支援技術II』（共編著、中央法規出版、2019）／『介護教育方法の理論と実践』（共著、弘文堂、2019）

前期課程の方へ

介護を取り巻く状況は厳しく様々な課題が顕在化しています。各自の問題意識を、講義・演習を通し価値あるものに高め、掘り下げ発展させることで、今後の介護の質を高める実践に資することを期待しています。

後期課程の方へ

特に高齢者介護福祉の直接支援に関連した実践研究を探究します。各自の研究課題を十分練り上げてください。研究のための研究ではなく、社会に貢献できる実践に役立つ研究成果を期待しています。



森 千佐子 教授

前 後

【略歴】九州保健福祉大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程単位取得退学後、博士（社会福祉学）を取得。筑波大学附属病院等で看護師として勤務した後、看護教員を経て、介護福祉士養成教育に携わり、2017年より現職。

【主な研究分野】高齢者支援、介護者支援、多職種連携、介護福祉教育

【著書】『介護予防の健康科学－高齢者・障害者のライフスタイル研究－』（共著、不昧堂出版、2008）／『人間関係ハンドブック』（共著、福村出版、2017）／『介護教育方法の理論と実践』（共著、弘文堂、2019）／『社会福祉士シリーズ 相談援助の理論と方法II 第3版』（共著、弘文堂、2020）など

前期課程の方へ

疑問や関心のある事柄を深く掘り下げ、解明するための理論や方法など研究の基礎を修得し、事象を論理的に多角的視点でとらえることが重要です。社会福祉・介護福祉の実践につながる研究成果を期待しています。

後期課程の方へ

高齢者をめぐる課題を中心に、これまでの研究成果を発展させながら、社会福祉・介護福祉に関する創造的・独創的な研究への取り組みを支援します。研究成果が社会貢献につながることを期待しています。



鶴岡 浩樹 教授

前 後

【略歴】1993年、順天堂大学医学部卒業。自治医科大学地域医療学教室、岩手県盛沢町民病院内科、ケース・ウェスタン・リザーブ大学家庭医療学講座、自治医科大学附属病院総合診療部外来医長を経て、2007年つるかめ診療所開設、2013年より現職。

【主な研究分野】地域医療、在宅医療、EBM、介護ロボット、多職種連携

【著書】『地域デザイン思考』（共著、北樹出版、2020）／『介護・福祉リーダーのためのチームマネジメント』（共著、中央法規、2019）／『こうすればうまくいく在宅緩和ケアハンドブック第3版』（共著、中外医学社、2019）／『医学概論』（共編、ミネルヴァ書房、2021）

前期課程の方へ

地域医療に関わる研究は現場に焦点を当てます。疾病の他、患者と家族、それを支える地域や社会など研究対象は広範囲です。量的研究、質的研究、ミックス法など多角的なアプローチを駆使し現場の不思議に迫ります。

後期課程の方へ

前期課程で身につけた知識、技術、価値観を高められるよう医学研究の立場から助言します。研究課題を多角的な視点で見つめ、エビデンスに基づく論理的思考を磨き、現場のための研究者を育みたいと思います。



菱沼 幹男 教授

前

【略歴】1994年、本学社会福祉学部卒業。2001年、本学大学院博士前期課程修了。2010年、本学大学院博士後期課程修了（社会福祉学博士）。社会福祉協議会職員、高齢者デイサービスセンター生活相談員、大妻女子大学実習講師、文京学院大学助教等を経て現職。社会福祉士・介護支援専門。

【主な研究分野】地域福祉、高齢者福祉、コミュニティソーシャルワーク

【著書】『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共編著、中央法規出版、2014）／『福祉のまちづくりの検証』（共著、彰国社、2013）など

前期課程の方へ

国は地域共生社会の実現に向けて包括的支援体制の構築を目指しています。この具現化のためにはコミュニティソーシャルワークの機能が重要であり、実践現場における課題解決の方策を追求していきます。



内田 宏明 准教授

前

【略歴】東洋大学大学院博士後期課程単位取得退学。養護老人ホーム相談員、障害者就労支援員、スクールソーシャルワーカー、長野大学実習助手、法政大学実習指導講師、飯田女子短期大学准教授を経て現職。

【主な研究分野】スクールソーシャルワーク、学校福祉、子どもの権利

【著書】『再構児童福祉－子どもたち自身のために』（共著、筒井書房、2014）／『まちいっばいの子どもの居場所』（共編著、子どもの風出版会、2019）／『入門スクールソーシャルワーク論』（編著書、ミネルヴァ書房、2022）など

前期課程の方へ

「子どもの権利」擁護を焦点として、スクールソーシャルワークの地域展開、学校福祉論の研究を進めている。また、社会福祉の原理論についても学びを深めたいと考えている。



佐々木 貴雄 准教授

前 後

【略歴】2006年一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）東京福祉大学専任講師・准教授を経て2023年より現職。

【主な研究分野】医療保険制度における保険者、高齢者を対象とした医療保障、社会の変化に対応した社会保障制度

【著書】『厚生（労働）白書を読む：社会問題の変遷をどう捉えたか』（分担執筆、ミネルヴァ書房、2018）『世界はなぜ社会保障制度を創ったのか：主要9カ国の比較研究』（分担執筆、ミネルヴァ書房、2014）

前期課程の方へ

前期課程では、まず研究論文の書き方をしっかりと理解することが求められます。先人の研究との対話の中で自ら考え、さらに考えを突き詰めたうえで論文にまとめていく楽しさをぜひ知ってほしいと思います。

後期課程の方へ

後期課程では、博士論文の執筆だけでなく、投稿論文や学会などで自らの研究を発表することが求められます。本大学院での研究をもとにして、ぜひ積極的に様々な学会や研究会に参加することを心掛けてください。



宇野 耕司 准教授

前

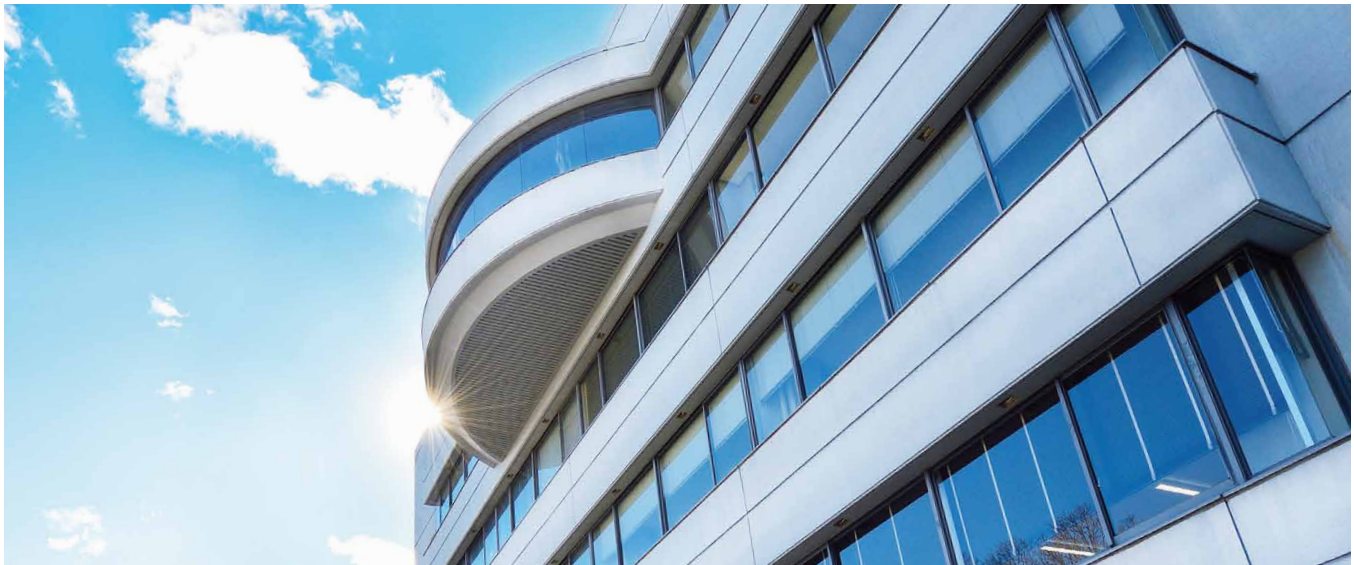
【略歴】児童養護施設等での実務を経験した後、2013年、本学大学院博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。目白大学准教授を経て、現職。

【主な研究分野】子ども虐待、子ども家庭福祉領域における援助・支援、子育て支援を含む社会的養育領域における実践と研究

【著書】『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』（中央法規出版共著）『ワークブック はじめての子育てと子育て支援』（学術研究出版）

前期課程の方へ

子ども家庭福祉領域の実践課題の解決に関心があります。実践を観察・記述し、研究テーマを明確にします。そして、研究テーマに関する先行研究をレビューし、実践課題を研究課題として説明し、問いを立て、その答えを見つけるために実証的な方法を用いて研究に挑みます。



修了生の声

※掲載されている内容は取材当時(2023年3月)のものです。

実践で得た知識を
研究によって形にし、
教育現場で還元

矢淵 規子さん

2022年3月研究大学院 社会福祉学研究科 博士前期課程修了
船橋市西部地域包括支援センター、日本社会事業大学 勤務

研究テーマ

協働性を高める児童虐待ソーシャルワークに関する研究
～家族とのゴール共有をあきらめない道程に焦点を当てて～

増加の一途をたどる児童虐待相談の対応は、在宅支援がほとんどです。市町村子ども家庭相談の役割が拡大していますが、支援につながりにくい家庭への対応が手探りである現状に着目し、協働性を高めるソーシャルワークの方法や展開について研究しました。仕事をしながらの学業だったため、職場の理解なくしては実現できなかったと思います。先生方が仕事との両立や研究のペース配分など、親身になり相談にのってくださったことも大きな支えでした。博士前期課程修了後は、日本社会事業大学の非常勤講師として教育現場に携わる機会をいただいています。実践や研究を教育という形で還元し、ソーシャルワーカー全体のボトムアップに寄与したいです。

学びを深めるきっかけ 実践で培った知識を形に

2008年に本学社会福祉学部を卒業し、船橋市役所の職員として児童虐待の対応等を担当しました。実践で積み重ねた知識をどのようにすれば形にできるのかを考えた時、大学院での研究にたどり着きました。卒業後も学内学会への参加や先生との交流を続け、学び続ける場があったことも影響しました。

インタビューを通して
経験者の生の声に触れ、
かけがえのない学びを得た

佐藤 葵さん

2019年3月研究大学院 社会福祉学研究科 博士前期課程修了
子どもの虹情報研修センター 勤務

研究テーマ

社会的養護を経験した者の自己実現に関する研究
―児童養護施設等を退所した25名の語りから

現在は子ども家庭福祉に関わる研修・研究等を行う機関で、専門職に向けた研修の企画・運営を担当しています。私はこれまで一貫して、社会的養護を経験した人の「その後」について考えてきました。研究活動では、経験者 25 名へのインタビューを実施。過去の傷つきや喪失、家族との葛藤に押しつぶされそうになりながらも、さまざまな転機を経て自己実現を目指す皆さんの語りからは、非常に示唆に富む研究的な知見を得られただけでなく、私個人としてもかけがえのない学びを深めることができました。今後も少しずつ経験や知識を蓄積しながら、家庭環境に関係なくすべての子どものウェルビーイングのため、実践・研究に励みたいと考えています。

学びを深めるきっかけ より詳細な調査・研究を求めて

社会的養護のもとで育った人がその後どのような生活を送っているのか、どのような支援を必要としているのか、より詳細に調査・研究したいと考えて本大学院へ。指導教員との対話を中心とするゼミ運営に加え、充実したカリキュラムでさらに多くの学びを得られると感じました。

ソーシャルワーカーの
社会的承認を広めるために
教育と研究の両面から尽力

根本 貴子さん

2022年3月研究大学院 社会福祉学研究科 博士後期課程修了
佐久大学 人間福祉学部 勤務

研究テーマ

がん相談支援センターの
活用促進のための要因解明

がん相談支援センターへのアクセシビリティの向上をテーマに、がんサバイバーによるがん相談支援センターの活用促進要因の解明に取り組んでいます。過少利用には認知率の低さが課題とされるなか、本研究ではがん専門相談員への質的・量的調査の統計的分析により、認定資格を持つ人員体制や提供するサービスの質などがセンターの活用に影響することを示しました。がん医療の進歩に伴い、多様なソーシャルワークニーズが増えている今日において、がんサバイバーを効果的にサポートしていくことの重要性は増えています。ソーシャルワーカーの活動に対する社会的承認が広まり相談機関の活用が進もう、今後もこの研究を進めていきたいと思っています。

学びを深めるきっかけ 実務で直面した福祉的課題

ソーシャルワーカーの実務から社会福祉士養成専門学校教員を経て、現在は大学で社会福祉士養成課程の教員を務めています。実務時代に直面していた福祉的課題について研究分野から取り組みたいと考えていたところ、実証研究に実績のある本大学院を勧められ、進学を決めました。

タイの高齢者サービスや
ソーシャルワークを
改善・浸透させたい

Nattapat Sarobolさん

2022年3月研究大学院 社会福祉学研究科 博士後期課程修了
タイ・タマサト大学 勤務

研究テーマ

アクティブ・エイジングのモデルを
推進するための効果的なプログラム

タイでは近い将来、高齢化社会に突入すると予想され、ソーシャルワーカーの専門知識の向上が課題となっています。そこで日本の介護予防プログラムを参考に、タイの地域高齢者の健康増進やサービス提供を目的としたコミュニティベースのプログラムを開発しようと考えています。研究の結果、日本では地域づくりに重点が置かれ、専門家によるサービス提供や、フレイルチェックの有効性などがわかりました。タイには介護保険制度がなく、家族が高齢者の介護を担っています。私には母国の高齢者サービスを改善してソーシャルワークを浸透させたいという夢があります。今後は本学の共同研究員としてさらに研究を深めるつもりです。

学びを深めるきっかけ タマサト大学との連携

日本社会事業大学はソーシャルワーク分野の研究で非常に有名です。さらに、母校のタマサト大学とも連携しており、私の研究分野である地域高齢者の社会福祉や医療ソーシャルワークを専門とする、社大の先生方と知り合う機会に恵まれました。一連の理由から本大学院への留学を決意しました。

修士論文題目(博士前期課程)

2022年度

- 精神疾患の親をもつ子どもに対する支援のプログラム理論に関する予備的検討

2021年度

- A病院の児童虐待予防に関する地域連携の実態調査

- 協働性を高める児童虐待ソーシャルワークに関する研究
―家族とのゴール共有をあきらめない道程に焦点を当てて―

2020年度

- 尊厳あるレクリエーション・アクティビティ支援に関する研究
―高齢者デイサービスの管理者へのインタビュー調査から―

- 精神疾患のある親とその子どもの支援に関する
児童家庭相談援助スタッフの自信度と実施度の関連

- 設立初期のヨーク・リトリートの実践と思想の研究
～精神障害者をコミュニティにおける生活者として捉えた支援の源流を辿って～

- 児童相談所設置のエキスパートに関する研究
―区立児童相談所の支援体制に焦点を当てて―

- 養育支援訪問事業の実践モデル化に必要な要素の探索的研究
～民間団体による「育児・家事援助」に焦点を当てて～

- 精神障害者の地域移行・地域定着に向けた支援をピアサポーターと協働して実践する一地域事例の分析
―当事者との対話によるリカバリー志向理念の浸透に注目して―

- 精神科長期入院からの地域移行支援において、ピアサポート活動を位置づけ、有効に機能させるための条件
～精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける効果的地域移行モデルの構築を目ざして～

- フィリピンのろう児の環境の現状と課題

博士論文題目(博士後期課程)

緑字:学位 黒字:題目

2022年度

博甲第84号

- 団地高齢者が「住み慣れた我が家で暮らし続ける」ための「出張暮らしの保健室」に関する研究
～訪問看護師と福祉職の協働による効果的支援モデルの提案～

2021年度

博甲第80号

- ひとり暮らし高齢者の「意思決定の準備」に関する研究
―福祉専門職によるアドバンス・ケア・プランニングの発展―

博甲第81号

- 「看取りの社会化」を進展させる「高齢者看取り支援」に関する研究
―市町村における先進的事業の分析を通して―

博甲第82号

- がん相談支援センター活用促進要因の探索的研究
―施設の取り組み状況に着目して―

博甲第83号

- The Development of an Effective Program for Promoting the Model of Active Aging in Thailand Utilizing a Care Prevention Program from Japan

2020年度

博甲第73号

- 精神障害者家族への心理教育プログラムの実装を促進するコンサルテーションのあり方
～実施スタッフのコンピテンス向上とチーム作りを支える有効な実装戦略の検討～

博甲第74号

- 特別養護老人ホームにおける介護福祉職の協働する
ちからの熟達化に関する研究
―「他者のフォロー」の学びと実践共同体―

博甲第75号

- 発達障害者を対象とした「効果的障害者就労移行支援プログラム」の形成的評価
～プログラム評価を用いた効果モデルの形成・改善～

博甲第76号

- 精神科長期入院者の退院促進に有効な「地域事業所」と精神科病院との協働のあり方
―「支援の核」が「支援チーム」に発展する要因に注目して―

博甲第77号

- 社会福祉領域の制度外ニーズに対応した変革プログラムの形成・発展に有効な事業評価手法の開発
―民間助成団体による事業評価受託事例へのCD-TPE法の適用とその分析から―

博甲第78号

- 精神障がいを持つ方の脱施設化に向けたより有機的・体系的な支援システムの構築
当事者の参画と医療・地域・行政を統合する地域コーディネーションの意義と効果

博甲第79号

- 介護福祉現場で働く介護福祉士の「キャリアコミットメント」
「組織コミットメント」に影響を及ぼす「経験」と「知識」、「スキル」
―養成施設を卒業したキャリア初期の介護福祉士を対象にして―

学長メッセージ

一人でも多くの人びとが「よりよく生きる」ために
社会福祉のリーダーを養成する大学として

日本社会事業大学は、第二次大戦直後の1946年に、政府からの委託を受けて、社会福祉・ソーシャルワークの専門教育機関として創立されました。その戦前の源流は、1908年に設立された中央慈善協会と1924年に改組・改称された財団法人中央社会事業協会の社会事業専門家を養成する講習会・研究生制度にまで遡ることができます。

日本社会事業大学の誇りは、日本で最も古い社会福祉の専門大学として、政府から委託された大学としての使命をもって、日本の社会福祉をリードした人材を多数養成してきたことにあります。

少子高齢化とともに社会的孤立の問題を抱える日本社会では、コロナ禍で新たな日常へと変容したこともあり、多くの人びとが生きづらい状況におかれています。そうした状況にある人びとがそれぞれの考えに基づき「よりよく生きる」ために、他者を思いやる心をもった指導的な福祉人材を養成するという日本社会事業大学の使命は、今日ますます重要になっています。

こうした使命を果たすために、日本社会事業大学は社会福祉学部に加え、大学院として社会福祉学研究科および日本で最初に開設された福祉専門職大学院である福祉マネジメント研究科を設置するとともに、通信教育科と附属子ども学園を設けて、総合的な社会福祉の大学として先進的な研究・教育体制を整えています。

生きづらい状況におかれている人びとに温かい手を差し伸べたいと志す多くの皆さんが、本学で学び合い、幅広い世代の多数の先輩とのご縁のもと社会福祉のリーダーとなって、一人でも多くの人びとが「よりよく生きる」ために、お力を発揮していただくことを願っています。



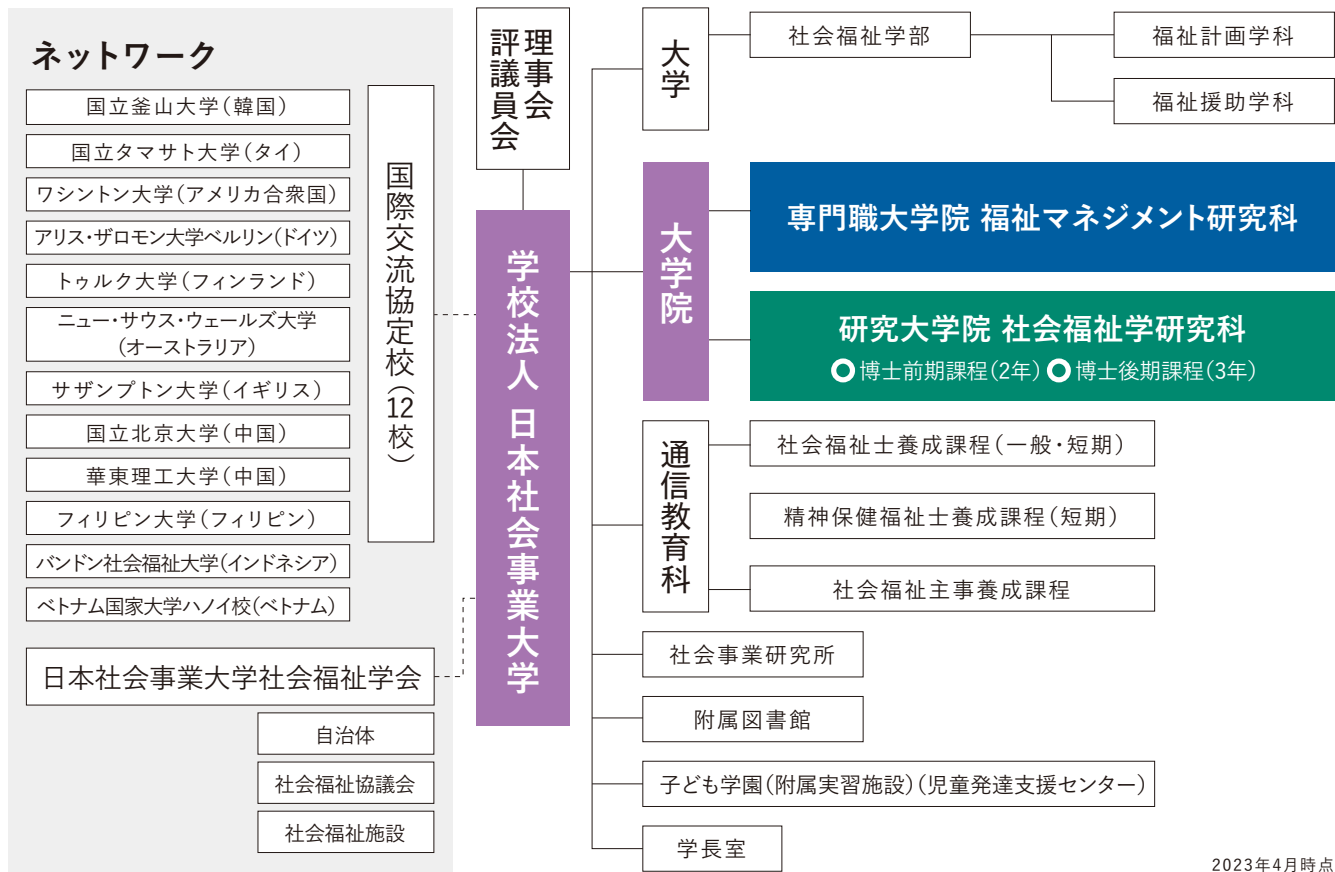
日本社会事業大学
学長 横山 彰

沿革

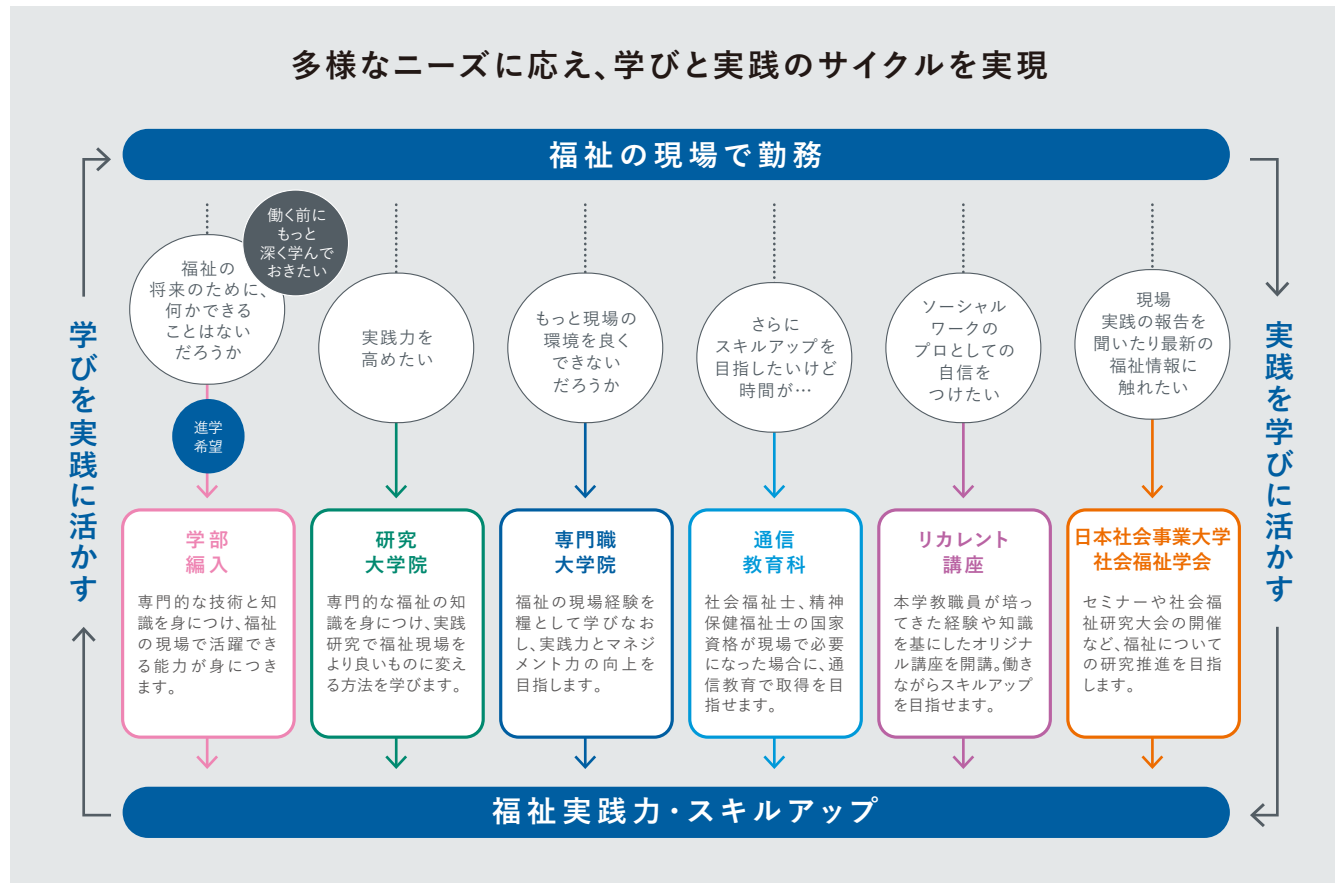
- 1908 (明治41)年10月
中央慈善協会設立(本学の淵源)
- 1921 (大正10)年3月
社会事業協会設立(中央慈善協会を改称)
- 1924 (大正13)年3月
財団法人中央社会事業協会設立
(社会事業協会を改称)
- 1928 (昭和3)年4月
社会事業研究生制度発足
- 1946 (昭和21)年11月9日
日本社会事業学校創立
東京都牛込区原町に開校
- 1947 (昭和22)年4月
財団法人日本社会事業協会設立
(財団法人中央社会事業協会を改組)
日本社会事業専門学校開校
- 1948 (昭和23)年1月
東京都渋谷区原宿に移転
- 1950 (昭和25)年4月
日本社会事業短期大学開学
- 1951 (昭和26)年3月
学校法人日本社会事業学校設立
(財団法人日本社会事業協会を改組)
- 1958 (昭和33)年4月
日本社会事業大学開学
- 1962 (昭和37)年4月
学校法人日本社会事業大学設立
(学校法人日本社会事業学校を改称)
- 1989 (平成元)年4月
東京都清瀬市に校舎移転
大学院社会福祉学研究科修士課程開設
- 1994 (平成6)年4月
大学院社会福祉学研究科博士後期課程設置

- 2004 (平成16)年4月
大学院福祉マネジメント研究科
専門職学位課程開設
- 2009 (平成21)年4月
専門職大学院に
長期履修制度(2年履修)を導入
- 2013 (平成25)年4月
附属実習施設「子ども学園」は
児童発達支援センターに改変
- 2016 (平成28)年10月
社会事業研究所に国際・アジア
福祉研究教育センター設置
- 2016 (平成28)年11月
日本社会事業大学 創立70周年
- 2017 (平成29)年4月
ボランティアセンター開設
- 2018 (平成30)年4月
学長室設置

組織図



2023年4月時点



学費

1年 標準修業年限			専門職大学院 福祉マネジメント研究科	
	費目	1年次		
学費等	入学金	282,000		
	授業料(全納)	535,800		
	教育充実費	300,000		
	諸会費	3,000		
合計(全納)		1,120,800		
授業料(分納)	前期分	852,900		
	後期分	267,900		

- 入学金及び授業料は、文部科学省令に基づく国立大学の入学金及び授業料の標準額に準じて、改正されることがあります。
- 授業料はスライド制を導入しており、在学中に授業料の改正があった場合には、授業料の額を変更することがあります。
- 授業料は前期と後期で分納できます。

通信教育科社会福祉士養成課程の併修

通常より安価に社会福祉士国家試験受験資格を取得することができます。

併修を希望する方は、専門職大学院の合格後に入学許可証の写しを添付して募集要項にしたがって通信教育科に出願してください。

詳細は通信教育科へお問い合わせください。

	費目	一般養成課程		短期養成課程	
		240時間実習	180時間実習	240時間実習	180時間実習
受講料	レポート添削料	48,000	48,000	20,000	20,000
	実習費	200,000	150,000	200,000	150,000

- 入学選考料、入学金、授業料及び面接授業参加費は免除されます。
- 実習を免除される者の実習費は徴収しません。

博士前期課程 (修士課程)		研究大学院 社会福祉学研究科		
	費目	1年次	2年次	備考
学費等	入学金	282,000	—	入学時のみ
	授業料(全納)	535,800	535,800	
	教育充実費	200,000	180,000	
	諸会費	4,500	—	入学時のみ
合計(全納)		1,022,300	715,800	
授業料(分納)	前期分	754,400	447,900	
	後期分	267,900	267,900	

- 本学学部卒業生で本大学院博士前期課程へ入学した者は、入学金を徴収しません。
- 授業料は前期と後期で分納できます。

2年 長期履修の場合		専門職大学院 福祉マネジメント研究科			
	費目	1年次	2年次	合計	
学費等	入学金	282,000	—	282,000	
	授業料(全納)	267,900	267,900	535,800	
	教育充実費	300,000	200,000	500,000	
	諸会費	4,500	—	4,500	
合計(全納)		854,400	467,900	1,322,300	
授業料(分納)	前期分	720,450	333,950	1,322,300	
	後期分	133,950	133,950		

名称	条 件	種 別	金 額	返 還	募 集	備 考
大学院学内給費生制度	学業成績・人物ともに優秀で経済的事由により授業料の納付が困難な学生	給 付	授業料年額と教育充実費を合計した額の全額、半額、または25%	返還義務なし	在学生前年度1月 新入生7月	単年度のみ
障害学生奨学金 給付制度	身体等の障害に起因して修学上特別な経済的支出を必要とする学生	給 付	当該学生の年間教育充実費相当額を上限とする	返還義務なし	1 月	単年度のみ
独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金 第一種	教育・研究者、高度の専門性を要する職業人の養成を目的として貸与するもので、人物・学業ともに特に優れかつ健康であって経済的理由により修学に困難があると認められる者	貸 与	(月額) <博士前期、専門職> 50,000円、88,000円から選択 <博士後期> 80,000円、122,000円から選択	卒業後無利子で返還	4 月	貸与期間は 最短在学年数 ※特に優れた業績による返還免除もあります (第一種)。
独立行政法人 日本学生支援機構 奨学金 第二種			(月額) 50,000円、80,000円、 100,000円、130,000円、 150,000円から選択	卒業後有利子 (利率上限3.0%)で返還		

●その他の奨学金

地方公共団体、民間団体・企業などでは大学院生を対象にした奨学金制度・研究助成金制度などを行っています。
個人的に調べた奨学金制度で申し込みをしたいものがありましたら、学生支援課まで相談してください。
また、留学生を対象とした奨学金は、日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費、公益財団法人平和中島財団などの受給実績があります。
これらの奨学金制度の募集時期は、おおむね4月～5月です。
詳細については、各自出身自治体などの関係諸機関、または民間団体・企業などに問い合わせてください。

専門職大学院 福祉マネジメント研究科 対象

専門実践教育訓練給付制度

申請 できる方	本学専門職大学院標準修業年限1年で修了する学生で、受講開始日現在で雇用保険の被保険者であった期間が3年以上(初めてのの方は当分の間2年以上)等条件を満たした方
給付額	(a)訓練費用の50%(年間40万円上限) (b)受講終了日の翌日から起算して1年以内に一般被保険者として雇用されている場合訓練費用の20%を追加給付 ※(a)(b)合計70%(年間56万円上限) ※ 専門実践教育訓練給付制度は、受講開始(入学)1ヶ月前までに必ず受講申請を終える必要があります。

教育訓練給付制度とは、自ら費用を負担して厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合、支払った経費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。
※申請手続き、支給条件等の詳細につきましては、ハローワークまでお問い合わせください。

進路・就職（継続勤務を含む）

専門職大学院 福祉マネジメント研究科

専門職大学院生の多くは、仕事と学びを両立させながら、研究に励んでおり、修了後も同一職場で勤務を継続しています。転職・就職を希望する場合は、学生支援課と担当教員でサポートします。

研究大学院 社会福祉学研究科 博士前期課程

国立国際医療研究センター／国府台病院

研究大学院 社会福祉学研究科 博士後期課程

聖学院大学／ピーエムシー株式会社／メディナケア株式会社

奨学金

一般教育訓練給付制度

申請 できる方	受講開始日現在、在職者であって、雇用保険の被保険者期間が3年以上(初めてのの方は当分の間1年以上)の方※、前回の教育訓練給付金受給から今回受講開始日前までに3年以上経過していること等一定の要件を満たした方 ※受講開始日時点で一般被保険者または高年齢被保険者でない方は、離職日の翌日以降、受講開始日までが1年以内(適用対象期間の延長が行われた場合は最大4年以内)であること
給付額	訓練費用の20%(年間10万円上限) ※10万円を超える場合は10万円とし、4千円を超えない場合は支給されません。

入試概要

専門職大学院 福祉マネジメント研究科

◆ 2024年度入試概要

入試区分	出願資格		募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
有資格者 入学試験 (区分A)	大学卒業相当者で、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保健師・看護師・保育士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師のいずれかの国家資格取得後、社会福祉関連領域の職場において3年以上の実務経験を有する者		50名 (修業年限1年 ただし、長期履修生は2年)	小論文 面接審査 書類審査	第Ⅰ期 11/6(月)～11/17(金)		
一般 入学試験 (区分B)	大学卒業相当者で、3年以上の社会人経験を有する者			小論文 筆記試験(語句説明) 面接審査 書類審査	第Ⅱ期 12/18(月)～1/5(金)	第Ⅰ期 12/3(日)	第Ⅰ期 12/13(水)12:00
推薦 入学試験 (区分C)	学内 試験 推薦	3年以上の社会人経験を有する者で次のいずれかに該当する者 ①本学社会福祉学部を卒業見込みで、本学社会福祉学部長の推薦を得た者 ②本学通信教育科(社会福祉士・精神保健福祉士)を卒業した者及び卒業見込みの者で、本学通信教育科長の推薦を得た者			第Ⅲ期 2/5(月)～2/16(金)	第Ⅱ期 1/21(日)	第Ⅱ期 1/31(水)12:00
	推薦 法人 試験	大学卒業相当者で本学が指定する法人の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該法人から推薦が得られる者で、復職が保証されている者		小論文 面接審査 書類審査	第Ⅳ期 2/19(月)～3/1(金)	第Ⅲ期 3/2(土)	第Ⅲ期 3/6(水)12:00
	推薦 地公 学団 体 試験	大学卒業相当者で地方公共団体の職員であって、原則3年以上の社会福祉関連領域における実務経験を有し、当該自治体から推薦が得られる者で、復職が保証されている者			Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること (それぞれ11/17、1/5、2/16、3/1の消印有効)	第Ⅳ期 3/10(日)	第Ⅳ期 3/10(日)17:00

※有資格者入学試験、一般入学試験、指定法人推薦入学試験の第Ⅳ期については早期に募集人員に達した場合、実施しないことがあります。
※詳細は「2024年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2023年度入試結果		
入試区分	志願者	合格者
有資格者入学試験	39	35
一般入学試験	4	4
学内推薦入学試験	1	1
指定法人推薦入学試験	1	1
地方公共団体推薦入学試験	2	2
計	47	43

研究大学院 社会福祉学研究科【博士前期課程(修士課程)】

◆ 2024年度入試概要					
入試区分	募集人員	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
一般入学	社会福祉学専攻 15名 (修業年限2年)	社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・英語・口述試験	前期第Ⅰ期 9/11(月)～9/22(金)	前期第Ⅰ期 10/7(土)	前期第Ⅰ期 10/18(水)12:00
リカレント入学及び福祉関係職経験者入学		社会福祉及び社会福祉関連科目 小論文・口述試験	前期第Ⅱ期 12/20(水)～1/12(金)		
学内推薦入学		小論文・口述試験	Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること (それぞれ9/22、1/12の消印有効)	前期第Ⅱ期 2/8(木)	前期第Ⅱ期 2/21(水)12:00

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試広報課にご確認ください。
※詳細は「2024年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2023年度入試結果		
入試区分	志願者	合格者
一般入学	2	2
リカレント入学	0	0
福祉関係職経験者入学	4	3
学内推薦入学	1	1
計	7	6

研究大学院 社会福祉学研究科【博士後期課程(博士課程)】

◆ 2024年度入試概要					
募集人員	選抜方法	試験科目	出願期間及び方法	試験日	合格発表日
社会福祉学専攻 5名 (修業年限3年)	入学者の選抜は、筆記試験(英語・小論文)、口頭試問、論文及び研究計画を総合評価して行う	英語・小論文・口頭試問	12/20(水)～1/12(金) Webにて出願登録をした後、必要書類を書留で郵送すること(1/12の消印有効)	2/9(金)	2/21(水)12:00

※出願する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡をとり、指導教員となることについて了解を得ることが望ましい。連絡方法については、入試広報課にご確認ください。
※詳細は「2024年度入学試験要項」でご確認ください。

◆ 2023年度入試結果	
志願者	合格者
3	3

説明会開催日程

大学院案内だけでは伝えきれない両大学院の魅力をお伝えします。
詳細はホームページで確認の上、ご参加ください。

■ 専門職大学院 開催日程				
日程	開催時間	内容	開催方法	会場
7月22日(土)	10:30～12:00	説明会・個別相談	オンライン	—
9月1日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
9月30日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	—
	11:45～13:30	説明会・個別相談		
10月27日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
11月11日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	—
	11:45～13:30	説明会・個別相談		
12月10日(日)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	—
	11:45～13:30	説明会・個別相談		
2024年 1月5日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス
1月20日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	—
	11:45～13:30	説明会・個別相談		
2月10日(土)	10:00～11:30	模擬授業	オンライン	—
	11:45～13:30	説明会・個別相談		
2月23日(金)	18:30～21:00	説明会・個別相談	ハイブリッド	文京キャンパス

※開催方法がハイブリッドの時は、対面かオンラインを選択できます。

研究大学院

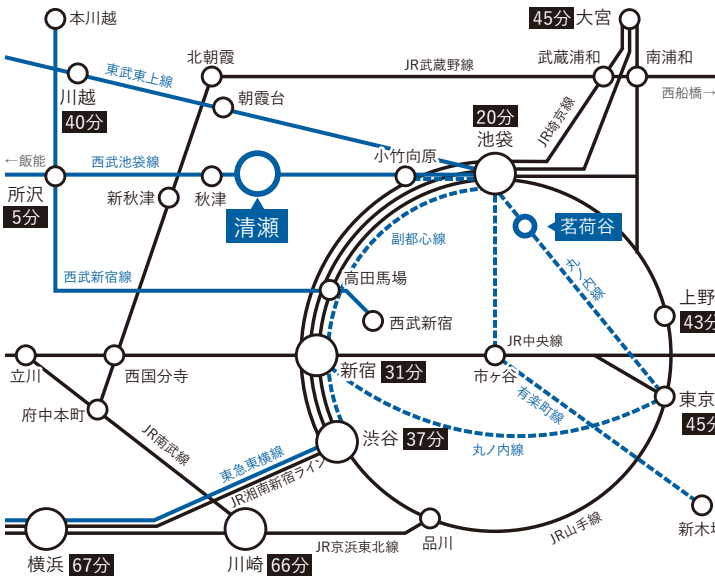
開催日程

日程	開催時間	内容	開催方法	会場
7月2日(日)	12:30～16:00	説明会・個別相談	オンライン	—
9月10日(日)	12:30～16:00			
10月28日(土)	12:30～16:00			
11月25日(土)	12:30～16:00			
12月9日(土)	12:30～16:00			

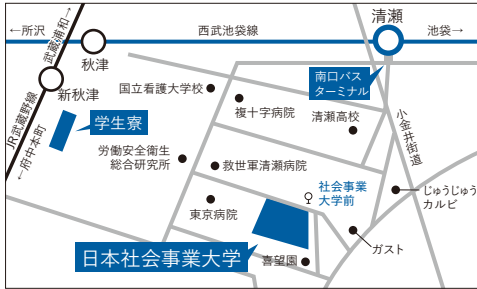
Access 都心へも快適アクセス 緑豊かな街、清瀬

— JR線	— 私鉄線	----- 東京メトロ
-------	-------	-------------

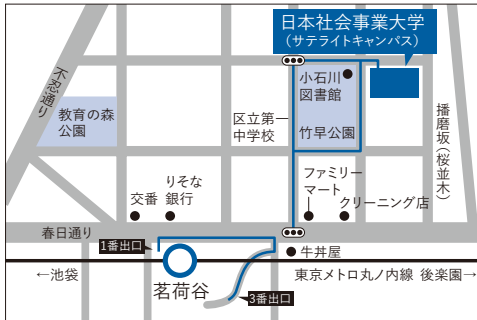
※下記の時間は、清瀬駅までの所要時間です。
※所要時間は目安です。乗り継ぎ時間・交通状況により変化する場合があります。



● 清瀬キャンパス(大学・大学院)



● 文京キャンパス(サテライトキャンパス)



最新情報を
SNSでお届け



説明会や入試日程などの入試情報を
SNSで発信中!

参加方法

本学Webサイトから
お申し込みください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程・内容は変更になる場合がありますので、最新情報は本学Webサイトにてご確認ください。

URL <https://jcsw.ac.jp/>

説明会の参加には
予約が必要です。

予約はこちらから▶



|お問い合わせ|

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30 入試広報課
TEL.042-496-3080 FAX.042-496-3081